

「第3期奈良県がん対策推進計画」の 達成状況について（中間評価）



奈良県福祉医療部医療政策局疾病対策課

令和4年3月

第3期奈良県がん対策推進計画中間評価 概要

- ・趣旨、協議の場
- ・目標・指標の達成状況
- ・これまでの主な取組・課題
- ・これからの取組～もっと良くするために～
- ・委員会・協議会からの意見

進捗状況評価シート

全体目標と、分野別施策ごとに、最終目標、中間目標の達成状況とそのために取り組んだことについて、評価シートを作成しました。計画策定時の目標値と最新値を比較して、達成状況により、「達成・未達成」の評価指標で定量的に記載をしました。

【評価結果】

- ・基準値と最新値の比較で評価を実施。
- ・目標達成もしくは未達成の主な理由を記載し、未達成の指標については、その理由や今後の課題を把握しているものを記載。

【主な取組】

- ・個別施策の主な取組について、計画策定後新しく追加した事業を赤字で追記。

【指標（最終アウトカム）の推移】

- ・把握した年度の欄に指標値を記載。（ ）内にその値の該当年度（または年）を記載。
- ・「－」：調査年ではない等の理由で、記載できる指標値がないもの
- ・「未把握」：調査統計指標の廃止、事業の未実施等により、把握できる値のないもの

【最新値の目標達成状況】

- ・「達成」：目標値を達成したもの
- ・「未達成」：目標値を達成しなかったもの
- ・「未把握」：調査統計指標の廃止、事業の未実施等により、把握できる値のないもの

【特記事項】

- ・指標の未把握等により、再設定が必要な指標について記載。

第3期奈良県がん対策推進計画中間評価 概要

趣旨

- 第3期奈良県がん対策推進計画(平成30年度～令和5年度)に基づくがん対策の進捗状況について中間時点における評価を行う。
- 新型コロナウイルス感染症対応のため、令和2年度実施を令和3年度に延期。また、次期計画協議時(令和5年度)に、指標や取組の再設定について実施することとする。

協議の場

中間評価結果をもとに、下記の委員会・協議会での意見をとりまとめ反映するとともに、次期計画の協議の参考とする。

奈良県 がん予防対策推進委員会 奈良県 たばこ対策推進委員会 奈良県 がん対策推進協議会

目標・指標の達成状況

「がんにならない、がんになっても安心できる奈良県」を基本理念に、「がんで亡くならない県 日本一」をめざして取組を進めてきました。

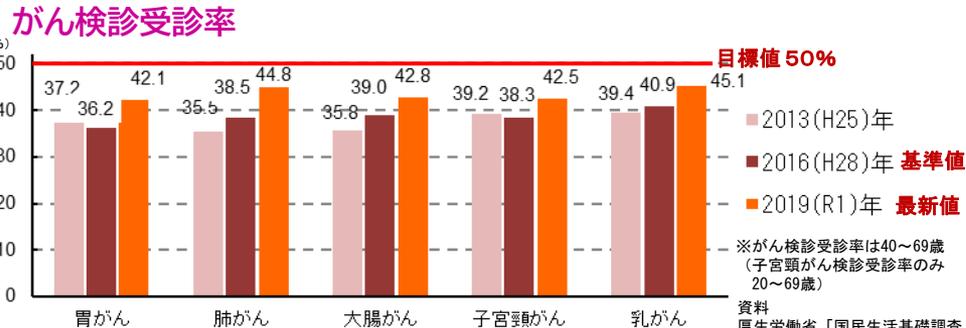
全体目標の達成状況

がんにならない、がんで若い人が亡くならない 75歳未満年齢調整死亡率：目標値 R9 52.8 27%減少	目標達成状況 1指標未達成
すべてのがん患者とその家族の苦痛が軽減され、 安心、納得のいく療養生活を送ることができる	目標達成状況 6指標中1指標達成
すべての県民ががんを知り、がんと向き合い、 希望を持って暮らせる地域共生社会をつくる	目標達成状況 4指標中3指標達成

主な指標の進捗状況

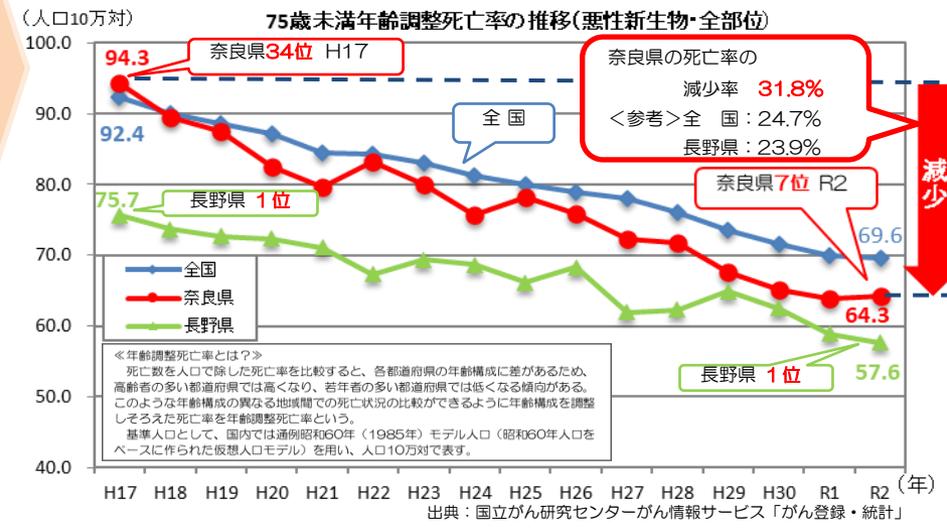
がん罹患率 (人口10万対) 目標値 減少(12年後)
基準値 367.3(H25) 最新値 385.7(H27)→408.3(H28)→397.6(H29)

5年相対生存率 目標値 増加(12年後)
最新値 全部位60.2%(H23)→60.9%(H24)



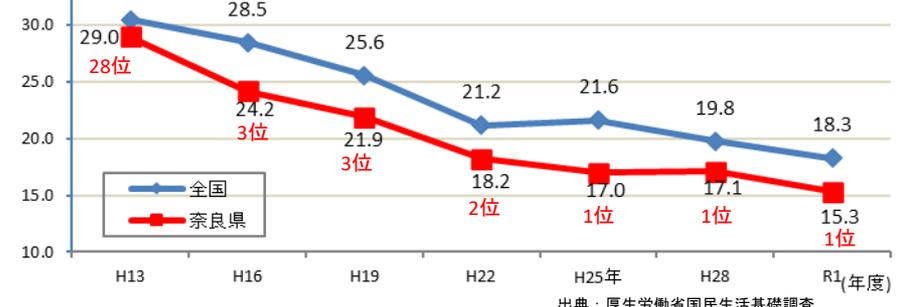
がん75歳未満年齢調整死亡率 基準値 72.3(H27) 最新値 63.9(R1) 目標値 52.8(R9)

- ◆奈良県のがん死亡率は平成17年からの15年間で改善。全国34位→7位(奈良県:H17 34位、H22 25位、H25 20位、H28 12位、R1 4位)
- ◆平成17年からの減少率は、平成27年以降6年連続で全国1位



成人の喫煙率

あらゆるがんのリスク要因といわれている喫煙率は、減少傾向にあり、平成25年度から全国で1番喫煙率の低い県を維持。



これまでの主な取組・課題とこれからの取組

この10年で奈良県のがん対策は大きく進み、がん死亡率は全国一の減少率で改善されてきましたが、今後死亡率全国一を目指すため、がんの「予防」「早期発見」「医療の質の向上」に取り組めます。

これまでの主な取組・課題

- がんになる要因を見える化
最新の研究結果や様々ながん関連のデータを活用・分析して、がんになるリスク要因を県民にわかりやすく「見える化」

- 「がん検診を受けよう！」奈良県民会議を通じた啓発活動

奈良県議会がん対策推進議員連盟をはじめとした企業・団体129団体とともに、がん予防にかかわる啓発活動を実施



- 地域における禁煙支援環境の整備
地域での禁煙支援薬局を整備

- エビデンスに基づいた各医療圏のがん対策の推進
各医療圏ごとに、各種がん関連データを集計・分析し、地域の課題を明らかにするとともに、市町村に対し、効果的ながん対策の取組を提案

- がん検診受診率向上となる取組推進
市町村の受診率向上等(コール・リコール)の推進

- 早期発見のためのがん検診精度向上のための取組
がん検診部会の取組による市町村支援

- がん医療の提供体制の整備
H29年の南奈良総合医療センターの地域がん診療病院指定により、5医療圏に拠点病院整備(がん診療連携拠点病院県拠点1カ所、地域拠点4カ所、地域がん診療病院1カ所)。
県独自に指定する地域がん診療連携支援病院整備(3カ所)。

- 患者目線でのがん診療情報の提供
県内のがん診療情報を病院別、がん種別など、わかりやすく見える化

- がんゲノム医療提供体制の整備
がん診療連携拠点病院等に人材と症例の集約化。
先進医療を担う奈良県立医科大学に「がんゲノム・腫瘍内科学講座」をR2年度から設置・運営。
 - がん薬物療法専門従事者を育成
 - がん拠点病院にがん薬物療法専門医を配置、空白地域を解消
 - 県内がんゲノム医療、薬物療法に係る医療施設間のネットワーク化

これからの取組~もっと良くするために~

- ナッジ理論に基づいたリスク要因の周知啓発
エビデンスに基づいたがんのリスク要因を見える化し、ナッジ理論に基づき、様々な媒体を使って周知

- 「がん検診を受けよう！」奈良県民会議等を通じた啓発活動の展開
ポストコロナ時代に見合った手法により啓発活動を展開

- 地域における禁煙支援体制の充実
地域での禁煙支援薬局を増加

- エビデンスに基づいた市町村のがん対策の推進
データに基づいた市町村の取組の参考とするため、市町村別の最優先課題を抽出し、地域にあった住民への打ち出し方を検討

- がん検診受診率向上となる取組の強化
働き盛りのがん検診受診率向上を目指し、職域の検診データの情報共有と分析



- がん医療の提供体制の充実
拠点病院等で構成するがん診療連携協議会との連携を通じ、県内がん医療提供体制の充実を図る

- 患者目線でのがん診療情報のさらなる充実
診療情報をデータ更新し「がんネットなら」で配信継続

- がんゲノム医療提供体制の強化
がん薬物療法専門医を育成開始
育成した薬物療法専門医を県内のがん拠点病院への配置
がんゲノム医療拠点病院指定を目指す取組を支援

- 小児・AYA世代のがん患者等への支援の推進
県内のがん医療機関と生殖医療機関の有機的な連携
妊孕性温存療法を希望する患者の経済的負担を軽減



予
防

早
期
発
見

医
療
の
質
の
向
上

委員会・協議会からの意見

「第3期奈良県がん対策推進計画」の達成状況（中間評価）（案）をもとに、各委員会・協議会から出た主な意見を取りまとめました。

たばこ対策の充実

- ・受動喫煙の考え方が浸透してきている。
- ・コロナ禍でも可能な禁煙支援の取組があればよい。
- ・個人の飲食店舗など、地域単位では対策への理解を深めるための施策が求められる。
- ・受動喫煙に合う人の割合が減少しているのは、喫煙率が低下しただけでなく、喫煙者のマナーの向上もあるのではないかと。
- ・受動喫煙にあう人の割合については、行政機関・医療機関が目標を達成して見本になるべきである。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響は続くものの、受動喫煙対策に対する正しい理解の促進と義務違反への対応強化は大きな課題である。
- ・敷地内禁煙を実施している市町村を好事例としてあげ、横展開できると良い。
- ・喫煙率は全国で一番低いと、女性は1位ではない。揺り戻しもあるので油断できない。
- ・禁煙やがん検診の普及には、企業の役割も大きい。取組を行う企業との連携が有効。

健康的な生活習慣の普及

- ・生活習慣を改善し、がんになるリスクを低下させる対策を推進していくことが重要。
- ・がん予防を目的とした禁煙や生活習慣病改善に向けた啓発に引き続き取り組んでいただきたい。
- ・減塩の取組をしていない市町村には、働きかけが必要。

感染症予防の充実

- ・肝炎ウイルスの検査受診者数が年々増加し、目標達成していることは良い傾向。引き続き取り組んでいただきたい。

がん検診の受診促進

- ・がん検診50%に向けての取組を途切れることなく働きかけることが必要。
- ・休日、早朝・夜間のがん検診実施は、各医療機関にとって難しいが、大腸がん検診は、ほとんどの診療所が土曜日の対応が可能。
- ・働き盛り世代（40代、50代）が受診しやすい検診体制の整備が必要。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、計画策定時と状況が異なり、評価が難しい。
- ・ポストコロナ時代においては、オンライン実施による「がん検診を受けよう！」県民会議の継続が望ましい。長期間、視聴できることは啓発にも繋がる。
- ・がん検診での早期発見の割合が下がっている。コロナ終焉後に速やかに検診を受けるよう手立てが必要。

がん検診精度管理の充実

- ・がん検診の精検未受診率は「5%以下」ではなく可能な限り「ゼロ」を目指すべき。受けっぱなしではなく最後まで把握していく必要がある。
- ・がん発見率、精密検査未受診率、陽性反応適中度が低下しているがん種は改善が必要。
- ・市町村が指針どおりのがん検診を実施するためには、県の支援が必要。
- ・e-learningの普及など、がん検診精度管理の充実にむけた取組が必要。

がん医療

- ・がん患者や家族に必要な情報を提供するため、実態把握をさらに進める必要がある。
- ・「妊孕性温存のための助成事業が始まったことは評価したい。周知とともに、実施施設との連携や相談窓口の整備も重要。
- ・がんゲノム医療の体制が整ってきた。治療実績も大きく伸びており、今後に期待したい。
- ・相談数や患者の情報収集が増加しているのは、現状に不安を感じているのではないかと思う。
- ・緩和ケアに繋げるために、患者だけではなく医療従事者にも正しい理解が進むよう、さらに働きかけが必要。
- ・緩和ケア＝終末期のイメージがまだまだ抜けきっていない。
- ・がん患者の在宅死亡割合の増加が少ない。がんの末期になり入院を優先したケースがあるのではないかと。
- ・現在、コロナ禍で患者が望む場所での療養生活の選択がより困難になっている。
- ・自宅での療養生活に向けての退院前カンファレンスが十分機能していないのではないかと。より早期からの支援等が必要。
- ・地域連携クリティカルパスの必要性とあり方について、さらなる検討が必要。
- ・さまざまな要因がプラスに働いて死亡率の改善に反映しているのでは。

がん患者等への支援

- ・がん患者が情報を得やすい体制の指標がよくなっているのは、患者自身が情報収集の必要性を感じているからではないか。
- ・「がんネットなら」が見やすくなり、がんになったときから活用できる情報が満載なので、周知方法の工夫が必要。各医療機関から患者・家族等にアナウンスしていただくのも良い。
- ・「がんネットなら」のアクセス数の増加は評価。さらに認知度をアップを望む。
- ・相談支援センターの認知度がアップし、利用者数が増加していることは評価。
- ・がん治療を受けながら働き続けられる環境が増えているのは、オンラインなど在宅勤務が進んだからではないか。
- ・中小企業に、仕事と治療の両立支援の制度を活用することで、離職率の低下や企業側にもメリットがあることの情報提供が必要。

がん医療

がん予防

早期発見

奈良県がん対策推進協議会からの意見

事前送付の「第3期奈良県がん対策推進計画」の達成状況(中間評価)(案)をもとに、協議会委員からいただいた主な意見をとりとまとめました。

がん医療

- ・コロナ感染症拡大の影響もあると思うが、必要な情報が提供されていないという声をがん患者さんやご家族から聞いている。今後の課題として、実態把握をさらに進める必要があるのでは。
- ・県内のがん診療連携拠点病院に受診している割合が減っているが、主治医の受診で満足できているということかと思う。
- ・妊孕性温存のための助成事業が始まったことは評価したい。周知とともに、実施施設との連携や意思決定支援としての相談窓口整備も重要である。
- ・相談数や患者の情報収集が増加しているのは、現状に不安を感じているのではないかと思う。
- ・うまく緩和医療に繋げるために、患者だけではなく医療従事者にも正しい理解が進むよう、さらに働きかけが必要。
- ・コロナ禍で、入院を見合わせていたことから、外来での対応が多くなっているように思う。
- ・「がんネットなら」等は、ネットを使えない人にはハードルが高いのかもしれない。
- ・がん患者の在宅死亡割合は、もっと増加すると思っていた。がんの末期になり入院を優先したケースもあると思う。
- ・新型コロナウイルス感染拡大による病棟の面会等の制限で在宅看取りが増加。また、ホスピス・緩和ケア病棟であれば面会が可能なため、それまでの間、在宅にてターミナルケアを行うケースも増加。結果的に家で納得のいく看取りができるケースは多いが、コロナ禍で患者が望む場所での療養生活の選択がより困難になっている。
- ・自宅での療養生活に向けての退院前カンファレンスが十分機能していないのでは。今後はより早期からの支援や課題に対応した内容の検討が必要。
- ・地域連携クリティカルパスの必要性とあり方について、さらなる検討が必要。
- ・患者側から見るとスムーズな地域連携が増加しているように思えるが、新型コロナウイルス感染拡大により、退院前カンファレンス等が開催される数が極端に減少したことで、連携が困難になっていると現場では感じている。
- ・「がんネットなら」のアクセス数の増加は素晴らしい。さらに認知度をアップできればと思う。

がん患者等への支援

- ・がん患者が情報を得やすい体制の指標がよくなっているのは、患者自身がある程度自分で情報収集の必要性を感じているからではないか。
- ・「がんネットなら」のアクセス数の増加は素晴らしい。さらに認知度をアップできればと思う。
- ・「がんネットなら」が、とても見やすくなり、がんになったときから活用できる情報が満載なので、周知方法の工夫が必要。さらに各医療機関から患者・家族等にアナウンスしていただくのも良いと思う。
- ・相談支援センターの認知度がアップし、利用者数が増加していることは素晴らしい成果だと思う。
- ・がん治療を受けながら働き続けられる環境が増えているのは、オンラインなど在宅での勤務がしやすくなったこともあると思う。
- ・中小企業には、社会保障制度の活用や、さんぽセンターとの連携など情報が届いていない懸念がある。離職率の低下や企業側にもメリットがあることの情報提供が必要。

進捗状況評価シート



目次

全体目標	1
1 がん予防・がんの早期発見 (1) がん予防	2
(2) がんの早期発見	7
2 がん医療 (1) がん医療の充実	12
(2) がんと診断されたときからの緩和ケア	16
(3) 地域連携	19
3 がん患者等への支援 (1) 相談支援及び情報提供	22
(2) がん患者の就労を含めた社会的な問題	25
4 がん登録	28
5 がん教育・普及啓発	31

全体目標

基本理念

がんにならない、がんになっても安心できる奈良県

全体目標	指標	出典	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(最終アウトカム)の推移				最新値 の目標 達成状 況
					H30	R1	R2	最新値	
がんにならない がんて若い人が亡くならない(がん予防、早期発見・早世防止)	がんの75歳未満年齢調整死亡率	人口動態統計	72.3 (H27)	52.8 (R9)	67.6 (H29)	65.1 (H30)	63.9 (R1)	64.3 (R2)	未達成
すべてのがん患者とその家族の苦痛が軽減され、安心、納得のいく療養生活を送ることができる	現在の心身の状態についてからだの苦痛(痛み)があると回答のあった人の割合	ならのがんに関する患者意識調査	17.4% (H29)	減少	—	—	—	21.7% (R3)	未達成
	現在の心身の状態についてからだの苦痛(痛み以外の症状)があると回答のあった割合		33.8% (H29)	減少	—	—	—	34.2% (R3)	未達成
	現在の心身の状態について気持ちがつらいと回答があった人の割合		30.5% (H29)	減少	—	—	—	33.0% (R3)	未達成
	経済的なことや就労のことなど、生活上の心配があると回答のあった人の割合		27.5% (H29)	減少	—	—	—	28.2% (R3)	未達成
	これまで受けた治療に納得していると回答のあった人の割合		88.1% (H29)	増加	—	—	—	88.1% (R3)	未達成
	がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの支援によって現在は軽減されたと回答のあった人の割合		36.4% (H29)	増加	—	—	—	39.4% (R3)	達成
すべての県民ががんと知り、がんと向き合い、希望を持って暮らせる地域共生社会をつくる	現在の日本は、がん治療を受けながら、働き続けられる環境だと思うと回答のあった人の割合	ならのがんに関する患者意識調査	29.1% (H29)	増加	—	—	—	33.5% (R3)	達成
	この1年間に自らの健康づくりのためにしたことがん検診を受ける	県民アンケート調査	31.5% (H29)	増加	35.5% (H30)	—	34.0% (R2)	34.0% (R2)	達成
	たばこを吸わない		55.9% (H29)	増加	60.5% (H30)	—	57.7% (R2)	57.7% (R2)	達成
	塩分を取り過ぎない		48.4% (H29)	増加	52.4% (H30)	—	48.0% (R2)	48.0% (R2)	未達成

1 がん予防・がんの早期発見

(1)がん予防

めざす姿 県民が、がん予防に関する正しい知識にもとづいたがん予防に取り組み、がんの罹患が減少している。

評価結果	<p>【最終目標】 指標①・② (目標達成状況) 2指標中、2指標未達成 ①・②については、がんになるリスクを低下させるという健康的な生活習慣、感染症対策等エビデンスに基づいた市町村のがん対策を推進していく。</p>
-------------	--

最終目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(最終アウトカム)の推移				最新値の目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
がん罹患率減少	① がん罹患率	367.3 (H25)	減少 (12年後評価)	385.7 (H27)	408.3 (H28)	397.6 (H29)	397.6 (H29)	未達成
がんに関する正しい知識を持っている	② 過去1年間にがん検診を受診した人の割合	胃36.2% 大39.0% 肺38.5% 乳40.9% 子38.3% (H28)	50%	-	-	胃42.1% 大42.8% 肺44.8% 乳45.1% 子宮42.5% (R1)	胃42.1% 大42.8% 肺44.8% 乳45.1% 子宮42.5% (R1)	未達成

最終目標達成に向けた指標(アウトカム)

中間目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(中間アウトカム)の推移				最新値の目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
禁煙希望者が禁煙できている	① 成人の喫煙率	12.2% (H28)	9.9%	12.0% (H29)	11.9% (H30)	13.2% (R1)	12.5% (R2)	未達成
県民が望まない受動喫煙にあわない	② 受動喫煙にあう人の割合	行政12.8% 医療機関7.9% 職場40.1% 家庭14.0% 飲食店49.4% (H28)	行政0% 医療機関0% 職場12.4% 家庭2.6% 飲食店14.8%	行政8.9% 医療機関7.2% 職場34.0% 家庭10.0% 飲食店43.3% (H29)	行政8.3% 医療機関6.4% 職場33.1% 家庭8.2% 飲食店42.9% (H30)	行政7.4% 医療機関5.9% 職場29.8% 家庭8.1% 飲食店41.2% (R1)	行政4.6% 医療機関4.6% 職場22.1% 家庭6.6% 飲食店21.4% (R2)	未達成
成人の塩分摂取量が減少している	③ 成人の塩分摂取量 男性 女性	10.6g/日 9.2g/日 (H28)	8g	-	-	-	-	未達成
生活習慣のリスクを高める飲酒をしている人が減少している	④ 生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の割合 男性 女性	11.2% 5.7% (H28)	減少	10.5% 6.8% (H29)	12.6% 6.1% (H30)	12.1% 7.4% (R1)	12.5% 6.3% (R2)	未達成
運動習慣を有する人が増加している	⑤ 運動習慣を有する人の割合 男性 女性	43.9% 43.8% (H28)	増加	47.8% 44.0% (H29)	49.0% 47.8% (H30)	50.4% 50.3% (R1)	48.8% 44.5% (R2)	達成
適正体重を維持している人が増加している	⑥ BMIが男性21~27の割合 BMIが女性21~25の割合	63.6% 38.9% (H28)	増加	62.5% 40.4% (H29)	64.6% 39.5% (H30)	63.6% 41.1% (R1)	62.9% 40.4% (R2)	男性:未達成 女性:達成

中間目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(中間アウトカム)の推移				最新値の目標 達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
感染症予防のための体制整備ができてい る	⑦ B型肝炎予防接種率	73.4% (H28)	増加	未把握	未把握	未把握	未把握	未把握
	⑧ 肝炎ウイルス検査受診者数(市町村) B型 C型	4,401人 4,402人 (H28)	増加	4,354人 4,357人 (H29)	5,586人 5,585人 (H30)	5,806人 5,803人 (R1)	6,206人 6,208人 (R2)	達成
	⑨ 肝炎ウイルス検査受診者数(保健所) B型 C型	287人 286人 (H28)	増加	350人 353人 (H29)	644人 641人 (H30)	785人 790人 (R1)	515人 514人 (R2)	達成

個別施策 中間目標達成に向けて取り組んだこと

1 たばこ対策の充実

- (1)市町村が主体となった普及啓発の推進
- (2)禁煙支援体制の整備・充実
- (3)禁煙支援の推進
- (4)未成年者の喫煙防止対策の強化
- (5)受動喫煙防止対策にかかる現状の把握と県民へのわかりやすい表示の推進

2 健康的な生活習慣の普及

- (1)減塩対策の充実
- (2)適正飲酒に関する普及啓発の推進
- (3)身体活動を増加させるための普及啓発の推進
- (4)適正体重について正しい理解の推進

3 感染症予防の充実

- (1)肝炎対策の強化
- (2)HTLV-1母子感染予防体制の整備
- (3)HPVの予防に関する国の施策の情報収集・提供
- (4)ヘリコバクター・ピロリの感染についての周知・啓発

1 たばこ対策の充実 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標 達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)市町村が主体となった普及啓発の推進 ・企業や団体等と連携した普及啓発 ・各種保健事業を活用し、禁煙支援及び普及啓発 ・広報誌、ホームページ等を活用した情報発信 ・ エビデンスに基づいた地域のがん対策の推進	① 普及啓発の実施市町村数	37/39 (H28)	増加	36/39 (H30)	39/39 (R1)	38/39 (R2)	38/39 (R2)	達成
(2)禁煙支援体制の整備・充実 ・市町村・医療機関・事業所等での禁煙支援リーフレットの活用の拡大 ・禁煙支援者の相談技術向上のための研修会の開催 ・禁煙支援協力薬局の設置・普及	② 禁煙支援リーフレットの活用機関数 ・市町村 ・医療機関等	18/39 196機関 (H28)	増加	29/39 271機関 (H30)	29/39 307機関 (R1)	25/39 310機関 (R2)	29/39 332機関 (R3)	達成
	③ 禁煙支援協力薬局数	56機関 (H28)	増加	92機関 (H30)	76機関 (R1)	74機関 (R2)	99機関 (R3)	達成
(3)禁煙支援の推進 ・住民や従業員を対象とした禁煙のスタートを支援する講習会の開催 ・市町村の検診等での肺機能測定と禁煙指導の実施 ・妊産婦を含めた女性を対象とした禁煙支援の実施 ・ 市町村たばこ対策分析評価の実施	④ スパイロシフトの活用市町村数	4/39 (H28)	増加	3/39 (H30)	4/39 (R1)	0/39 (R2)	0/39 (R2)	未達成
(4)未成年者の喫煙防止対策の強化 ・未成年者禁煙支援相談窓口の設置・普及 ・学校・教育委員会と連携した喫煙防止教育の充実	⑤ 喫煙防止教育の参加人数	40人 (H29)	増加	未実施	58人 (R1)	未実施	58人 (R1)	達成
(5)受動喫煙防止対策にかかる現状の把握と県民への分かりやすい表示の推進 ・市町村庁舎等の禁煙化状況調査の実施、現状の把握 ・関係機関・団体への受動喫煙防止に係る説明会の実施 ・ 保健所に相談相談員を配置し相談窓口を設置 ・ 改正健康増進法についての普及啓発及び相談・義務違反対応	⑥ 敷地内・建物内禁煙の実施市町村数 敷地内禁煙 建物内禁煙	2/39 37/39 (H28)	敷地内禁煙 39/39	3/39 36/39 (H30)	6/39 33/39 (R1)	16/39 23/39 (R2)	16/39 23/39 (R2)	未達成
	⑦ 受動喫煙防止対策にかかる説明会の参加人数	340人 (H30)	増加	-	2520人 (R1)	1663人 (R2)	1663人 (R2)	達成

評価結果

【個別指標】
 (目標達成状況) 7指標中、5指標達成
 (未達成の指標について) ④は、たばこ対策推進委員会において、今後はCOPDの啓発に力を入れるよう協議され、測定時に、飛沫拡散のリスクが高く、新型コロナウイルス感染症等の感染予防の観点から、R2年度にて貸出事業を終了。⑥は、健康増進法により第一種施設である市町村庁舎は、原則敷地内禁煙となっているが、23市町村は特定屋外喫煙場所を設置し、建物内禁煙としているため。
 【中間目標】 指標①・②
 (目標達成状況) 2指標中、2指標未達成
 (未達成の指標について) ①は、禁煙支援協力薬局の登録等により地域における禁煙支援環境を整備し、H25年より全国で1番喫煙率の低い県を維持。②は、R2年4月の健康増進法の全面施行も契機となり、普及啓発を継続して行った結果、減少傾向。

特記事項

- ・健康増進法の一部改正により、受動喫煙防止対策について奈良県では特に周知啓発に注力した。
- ・禁煙希望者が確実に禁煙できるよう禁煙支援体制の充実のため、禁煙支援協力薬局の登録等により地域における禁煙支援環境を整備している。新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から、禁煙支援アドバイザー研修会をR3年度からオンラインで実施。
- ・禁煙支援体制の充実をはかるため、市町村たばこ対策分析評価の実施。
- ・健康増進法の一部改正に伴い、保健所に相談相談員を配置し相談窓口を設置し、改正健康増進法についての普及啓発及び相談・義務違反対応を実施。
- ・H30年度より、エビデンスに基づく地域の課題を明らかにし、市町村に対し効果的な取組を提案、地域にあった住民への打ち出し方を検討するため、地域別がん対策見える化推進事業を実施。(今後検討が必要な指標)個別施策の指標④。

2 健康的な生活習慣の普及 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時基準値	計画策定時目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況	
				H30	R1	R2	最新値		
(1)減塩対策の充実 ・減塩教室実施マニュアルの活用促進 ・市町村や企業における健康教育の充実 ・親子減塩教室の開催 ・企業や食育ボランティアと連携・協働した減塩調理・減塩調味料等の普及啓発の促進 ・減塩調味料等の普及啓発の推進 ・食生活改善推進員の食育推進活動の支援強化 ・企業による食育講座等の企画・運営 ・減塩・野菜摂取を推進する飲食店、スーパーマーケット等の登録の推進 ・市町村・学校・保育所等と連携・協働した食育の推進 ・学校、幼稚園等への食育出前講座の開催 ・夏休み親子料理教室の開催	①	減塩に関する健康教育を実施する市町村数	37/39 (R1)	増加	-	-	26/39 (R2)	25/39 (R3)	未達成
	②	企業と連携し、減塩対策に取り組む市町村数	5/39 (R1)	増加	-	-	1/39 (R2)	5/39 (R3)	未達成
	③	登録店舗数	73 (H30)	増加	-	50 (R1)	52 (R2)	52 (R2)	未達成
	④	乳幼児健診等の機会に減塩・野菜摂取をテーマに健康教育を実施する市町村数	20/39 (R1)	増加	-	-	17/39 (R2)	15/39 (R3)	未達成
(2)適正飲酒についての普及啓発の推進 ・市町村、医療機関、薬局等での飲酒量チェックリストの掲示 ・がん検診、特定健康診査受診時の情報提供 ・県民公開講座等の講演会の開催 ・特定健康診査質問票の飲酒項目を効果的に活用するための研修会の開催 ・適正飲酒に関する保健指導の強化を目的とした研修会の開催 ・特定健康診査質問票による多量飲酒傾向にある人のスクリーニングの実施 ・支援ツールを活用した情報提供 ・支援ツールを用いた個別保健指導	⑤	飲酒量チェックリスト掲示市町村・医療機関・薬局数	未把握	増加	未把握	未把握	未把握	未把握	未把握
	⑥	適正飲酒に関する研修会参加保険者数	未把握	増加	未把握	未把握	未把握	未把握	未把握
	⑦	保健指導実施保険者数	未把握	増加	未把握	未把握	未把握	未把握	未把握
(3)身体活動を増加させるための普及啓発の推進 ・奈良県健康ステーションの活用について周知 ・市町村営の健康ステーションの設置・運営支援 ・スポーツイベント等での出張健康ステーションの実施 ・広報紙、ホームページ等を活用した情報発信	⑧	身体活動を増加させるための普及啓発に取り組んでいる保険者数	9 (H30)	増加	-	未把握	未把握	未把握	未把握
(4)適正体重について正しい理解の推進 ・特定健康診査、がん検診等の機会を活用した普及啓発 ・広報紙、ホームページ等を活用した情報発信	⑨	適正体重について正しい理解を推進するための普及啓発に取り組んでいる保険者数	9 (H30)	増加	-	未把握	未把握	未把握	未把握

評価結果	【個別指標】 (目標達成状況) 9指標中、4指標未達成・5指標未把握 (未達成の指標について)①・②・④は、新型コロナウイルス感染症の影響でイベント等を開催する機会が減少しているため。③は、新型コロナウイルス感染症の影響で、店舗への働きかけが困難。 【中間目標】 指標③・④・⑤・⑥ (目標達成状況) 4指標中、1指標達成 (未達成の指標について)③は、国民健康・栄養調査の都道府県別データが、4年に1度となるがR2・R3年の国民健康・栄養調査が新型コロナウイルス感染症の影響により調査中止となり評価指標がないため。④は、過度な飲酒ががんのリスクが上がる要因となることについて県の広報等で啓発。⑥は、奈良県健康ステーションにておでかけ健康法の実践サポートが実施されていることに加え、健康的な食事が入手できる環境を整備するため、R1年度よりやさしおベジ増しプロジェクト推進事業が開始。
特記事項	・R1年度より、やさしおベジ増しプロジェクト推進事業が開始。 (今後検討が必要な指標)個別施策の指標⑤・⑥・⑦・⑧・⑨

3 感染症予防とその充実 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時基準値	計画策定時目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況	
				H30	R1	R2	最新値		
(1)肝炎対策の強化 ・保健所の肝炎ウイルス検査体制の強化(受検しやすい体制の整備) (委託医療機関における肝炎ウイルス検査の実施等) ・肝炎検査受検率向上となる工夫をした市町村の情報を提供 ・陽性者への医療費助成の継続実施 ・陽性者の重症化予防対策の促進 ・肝炎医療コーディネーターの養成と活用促進 ・肝炎患診療連携拠点病院の取組強化(肝炎患相談センターにおける相談支援、 <u>肝炎患拠点病院連絡協議会</u> 、市町村等への技術支援、地域連携、データ分析の活用) ・県内医療機関のネットワークの構築と技術的支援 ・B型肝炎ワクチンの予防接種の周知 ・受診者数が増加した市町村の効果的な取組事例をまとめ、市町村への還元 ・市町村は、他の検(健)診と併せて、受診できる体制整備と、受診すべき対象者を選定した受診勧奨の実施	①	B型肝炎予防接種率	73.4% (H28)	増加	未把握	未把握	未把握	未把握	未把握
	②	肝炎ウイルス検査受診者数(市町村) B型 C型	4,401人 4,402人 (H28)	増加	4,354人 4,357人 (H29)	5,586人 5,585人 (H30)	5,806人 5,803人 (R1)	6,206人 6,208人 (R2)	達成
	③	肝炎ウイルス検査受診者数(保健所) B型 C型	287人 286人 (H28)	増加	350人 353人 (H29)	644人 641人 (H30)	785人 790人 (R1)	515人 514人 (R2)	達成
	④	個別受診勧奨実施市町村数	24/39 (H28)	増加	27/39 (H29)	29/39 (H30)	31/39 (R1)	33/39 (R2)	達成
(2)HTLV-1母子感染予防対策体制の整備 ・奈良県のHTLV-1母子感染支援体制を整備し構築する ・奈良県母子感染予防対策検討会の実施 ・奈良県HTLV-1母子感染予防対策研修会の開催 ・感染予防マニュアル「HTLV-1検査妊産婦支援Q&A」を改正し周知	設定なし								
(3)HPVの予防に関する国の施策の情報収集・提供 ・国の研究・調査結果等の情報を収集	設定なし								
(4)ヘリコバクター・ピロリの感染についての周知・啓発 ・がん検診等の機会を通じて、リーフレット等を活用した普及・啓発	設定なし								

評価結果	【個別指標】 (目標達成状況) 4指標中、3指標達成・1指標未把握 【中間目標】 指標⑦・⑧・⑨ (目標達成状況) 3指標中、2指標達成・1指標未把握
特記事項	・R3年度よりウイルス性肝炎患者等における検査費用助成の拡充 ・R3年度より肝がん・重度肝硬変患者における対象の拡充。 ・H31年3月に奈良県版HTLV-1検査母子感染予防対策支援マニュアルの改正。 ・主な取組(3)・(4)は、国の研究・調査結果・動向を注視し、感染症に起因したがんもあることについて県の広報等で啓発。 (今後検討が必要な指標) 個別施策の指標①、中間目標の指標⑦、主な取組(2)・(3)・(4)

1 がん予防・がんの早期発見

(2)がんの早期発見

めざす姿 県民が、がんの早期発見やがん検診受診の必要性を認識し、質の高いがん検診を受診できている。

評価結果	【最終目標】指標①・② (目標達成状況) 2指標中、1指標達成 ①について目標未達成の肺がん、子宮がん検診は、精度管理指標においても未達成の項目であり、がん死亡者を減少させるため、県民がより利用しやすい検診体制と精度管理がなされたがん検診を提供するとともに働き盛り世代の受診率向上となる取組を強化することでがんの早期発見・早期治療を推進する。								
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

最終目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(最終アウトカム)の推移				最新値の目標 達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
がんが早期の段階で発見されている	① がん検診における早期がんの割合	胃 44.2% 大腸 39.1% 肺 27.3% 乳 48.1% 子宮 21.1% (H27)	増加	56.0% 60.9% 35.7% 58.2% 18.2% (H28)	56.1% 54.1% 18.2% 62.5% 30.8% (H29)	60.8% 66.7% 20.0% 46.4% 14.3% (H30)	52.3% 62.8% 12.5% 59.2% 0.0% (R1)	胃 達成 大腸 達成 肺 未達成 乳 達成 子宮 未達成
がんが早期の段階で診断されている	② がん登録における早期がんの割合	胃 57.7% 大腸(上皮内含む) 52.7% 肺(上皮内含む) 33.8% 乳(上皮内含む)女性のみ 63.8% 子宮(上皮内含む) 72.6% (H25)	増加	59.9% 57.5% 37.4% 64.4% 80.7% (H27)	62.8% 60.4% 35.7% 66.5% 80.9% (H28)	61.2% 59.4% 36.2% 66.8% 80.3% (H29)	61.2% 59.4% 36.2% 66.8% 80.3% (H29)	達成

最終目標達成に向けた指標(アウトカム)

中間目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(中間アウトカム)の推移				最新値の目標 達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
がん検診を受けやすい体制整備ができている	① がん検診受診率	胃 36.2% 大腸 39.0% 肺 38.5% 乳 40.9% 子宮 38.3% (H28)	50%	—	—	42.1% 42.8% 44.8% 45.1% 42.5% (R1)	42.1% 42.8% 44.8% 45.1% 42.5% (R1)	未達成
精度の高いがん検診が実施できている	② 要精検率	胃 4.3% 大腸 5.9% 肺 1.4% 乳 9.0% 子宮 1.5% (H27)	11.0%以下 7.0%以下 3.0%以下 11.0%以下 1.4%以下	3.9% 6.0% 1.5% 8.5% 1.3% (H28)	5.6% 5.7% 1.5% 6.7% 1.5% (H29)	6.6% 5.3% 1.2% 6.9% 1.5% (H30)	6.1% 5.8% 1.3% 6.4% 1.3% (R1)	達成
	③ 精検受診率	胃 85.3% 大腸 74.7% 肺 89.8% 乳 94.6% 子宮 81.8% (H27)	90%以上	85.3% 75.6% 91.6% 94.8% 79.0% (H28)	87.1% 79.0% 88.2% 96.1% 70.3% (H29)	89.5% 78.7% 88.0% 94.7% 72.2% (H30)	89.6% 78.5% 90.4% 96.0% 81.9% (R1)	胃 未達成 大腸 未達成 肺 達成 乳 達成 子宮 未達成
	④ 陽性反応適中度	胃 3.81% 大腸 5.09% 肺 2.49% 乳 4.60% 子宮 3.47% (H27)	1.0%以上 1.9%以上 1.3%以上 2.5%以上 4.0%以上	2.6% 4.2% 2.9% 3.7% 2.4% (H28)	2.9% 4.8% 2.4% 5.1% 2.5% (H29)	3.3% 4.3% 2.7% 5.9% 2.8% (H30)	3.1% 5.0% 2.1% 5.7% 1.9% (R1)	胃 達成 大腸 達成 肺 達成 乳 達成 子宮 未達成

中間目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(中間アウトカム)の推移				最新値の目標 達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
精度の高いがん検診が実施できている	⑤ がん発見率	胃 0.16% 大腸 0.30% 肺 0.03% 乳 0.42% 子宮 0.05% (H27)	0.11%以上 0.13%以上 0.03%以上 0.23%以上 0.05%以上	0.10% 0.25% 0.04% 0.32% 0.03% (H28)	0.16% 0.27% 0.04% 0.34% 0.04% (H29)	0.22% 0.23% 0.03% 0.41% 0.04% (H30)	0.19% 0.29% 0.03% 0.37% 0.02% (R1)	胃 達成 大腸 達成 肺 達成 乳 達成 子宮 未達成
	⑥ 精検未把握率	胃 5.9% 大腸 8.0% 肺 4.3% 乳 1.4% 子宮 6.8% (H27)	5%以下	5.2% 7.1% 3.1% 2.4% 9.7% (H28)	6.8% 8.8% 6.9% 1.7% 16.8% (H29)	4.4% 6.9% 5.3% 2.2% 19.1% (H30)	4.0% 7.1% 2.8% 1.1% 9.8% (R1)	胃 達成 大腸 未達成 肺 達成 乳 達成 子宮 未達成
	⑦ 精検未受診率	胃 8.8% 大腸 17.3% 肺 5.9% 乳 4.0% 子宮 11.5% (H27)	5%以下	9.6% 17.2% 5.2% 2.8% 11.3% (H28)	6.1% 12.2% 4.9% 2.3% 12.9% (H29)	6.0% 14.4% 6.7% 3.0% 8.7% (H30)	6.4% 14.4% 6.7% 2.9% 8.3% (R1)	胃 未達成 大腸 未達成 肺 未達成 乳 達成 子宮 未達成
石綿ばく露による健康不安を持つ人の割合	⑧ 石綿ばく露による健康不安を持つ人の割合	81.7% (H28)	減少	未把握	未把握	未把握	未把握	未把握

個別施策 中間目標達成に向けて取り組んだこと

1 がん検診の受診促進

- (1)「がん検診を受けよう！」奈良県民会議の開催
- (2)企業と連携した(奈良県がん検診応援団)がん検診受診啓発
- (3)がん検診受診勧奨を推進するための人材育成
- (4)市町村の受診率向上に向けた取組支援
- (5)協会けんぽと連携したがん検診の推進
- (6)県民だより、健康だより、インターネット、(県ホームページ・SNS等)を活用した情報発信

2 がん検診精度管理の充実

- (1)がん検診従事者の資質向上のための研修会の継続
- (2)がん検診精度管理調査の実施・公表・指導

3 石綿の健康被害に対する対策の推進

- (1)石綿ばく露者の健康管理の充実

1 がん検診の受診促進 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時基準値	計画策定時目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)「がん検診を受けよう！」奈良県民会議の開催 ・広報紙、インターネットを活用した普及啓発 ・奈良県民会議会員による街頭キャンペーンの実施 ・保健事業を通じた普及啓発	① 「がん検診を受けよう!奈良県民会議登録会員数	123 (H29)	増加	126 (H30)	128 (R1)	129 (R2)	129 (R3)	達成
(2)企業と連携した(奈良県がん検診応援団)がん検診受診啓発 ・新規会員加入に向けた周知 ・企業との連携による効果的な受診勧奨ツールの作成及び啓発	② 奈良県がん検診応援団企業数	13 (H29)	増加	15 (H30)	17 (R1)	18 (R2)	18 (R3)	達成
(3)がん検診受診勧奨を推進するための人材育成 ・市町村におけるがん予防推進員の養成 ・企業・団体等と連携した人材育成	③ がん予防推進員を養成し、ともに受診促進に取り組む市町村数	10市町村 (H29)	増加	12市町村 (H30)	15市町村 (R1)	15市町村 (R2)	15市町村 (R3)	達成
(4)市町村の受診率向上に向けた取組支援 ・個別受診勧奨・再勧奨の実施方法の検討・評価 ・受診しやすい体制(申込方法が簡便、身近なところで受診できる、周囲からの呼びかけなど)の整備 ・受診率が向上した市町村の取組を好事例としてまとめ、他の市町村に紹介 ・受診しやすい市町村検診体制の整備 ・受診しやすい市町村検診体制の整備 休日(土日・祝日)、早朝又は夜間検診の実施 ・特定健診とがん検診のセット検診に関する研修会の実施 ・エビデンスに基づいた地域のがん対策の推進	④ 受診勧奨・再勧奨に取り組む市町村数	22市町村 (H29)	増加	29市町村 (H30)	28市町村 (R1)	29市町村 (R2)	29市町村 (R3)	達成
	⑤ セット検診を実施している市町村数 男性 3がん 女性 5がん	男性31市町村 女性16市町村 (H28)	増加	26市町村 18市町村 (H30)	27市町村 19市町村 (R1)	29市町村 22市町村 (R2)	21市町村 19市町村 (R3)	男性 未達成 女性 達成
	⑥ 集団検診における休日(土日・祝日)、早朝又は夜間検診を実施している市町村割合	胃 73.7% 大腸 70.3% 肺 73.7% 乳 65.6% 子宮 66.7% (H28)	増加	73.7% 67.6% 73.7% 65.7% 67.6% (H29)	73.7% 73.0% 71.1% 66.7% 70.6% (H30)	65.8% 70.3% 68.4% 65.7% 67.6% (R1)	65.8% 70.3% 68.4% 65.7% 67.6% (R1)	胃 未達成 大腸 未達成 肺 未達成 乳 達成 子宮 達成
(5)協会けんぽと連携したがん検診の推進	⑦ 協会けんぽの被扶養者検診と市町村特定健診及びがん検診を同時実施している市町村数	10市町村 (H29)	増加	6市町村 (H30)	7市町村 (R1)	4市町村 (R2)	6市町村 (R3)	未達成

評価結果

【個別指標】
(目標達成状況) 7指標中、4指標達成
(未達成の指標について)⑤・⑥・⑦については、新型コロナウイルス感染症の影響により特定健診やがん検診を縮小した市町村があるため。
【中間目標】指標①
(目標達成状況)1指標中、1指標未達成
①は未達成ではあるものの、5がん全てにおいて受診率が向上。

特記事項

- ・受診率の向上をめざし、R2年度の「がん検診を受けよう！」奈良県民会議では、新型コロナウイルス感染症の影響により、街頭啓発に代わり、新聞やフリーペーパー等、様々な媒体を活用した幅広い世代へのがんに関する知識の普及啓発を強化。R3年度は総会・講演会をオンラインで実施。
- ・市町村の受診率向上に向けて、R1年度に特定健診とがん検診のセット検診に関する研修会の実施。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度は市町村のがん検診の一部延期、縮小、中止があったが、R3年度は概ね計画通り実施。
- ・H30年度より、エビデンスに基づく地域の課題を明らかにし、市町村に対し効果的な取組を提案、地域にあった住民への打ち出し方を検討するため、地域別がん対策見える化推進事業を実施。

2 がん検診精度管理の充実 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定 時目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値 の目標 達成状 況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)がん検診従事者の資質向上のための研修会の継続 ・発見がん症例の追跡調査方法の検討、実施 ・症例検討会の開催 ・検査技術向上のための研修会の開催 ・ <i>がん検診のeラーニング研修会の活用</i> ・ <i>精度管理向上のための従事者研修会の実施</i>	① がん検診従事者研修会の参加者数(延べ)	530人 (H28)	増加	186人 (H30)	207人 (R1)	未実施	207人 (R1)	未達成
(2)がん検診精度管理調査の実施・公表・指導 ・市町村がん検診プロセス指標の評価 ・「がん検診チェックリスト」の使用に関する実態調査の評価 ・集団検診実施機関を対象とした精度管理調査の実施 ・都道府県及び生活習慣病検診等管理指導協議会(各がん検診部会)の活動状況調査報告 ・個別検診実施機関及び検査担当医師を対象とした精度管理方法の検討 ・ <i>検診機関用チェックリストの作成</i>	② 市町村がん検診チェックリストを用いた実態調査において実施率が80%以上である市町村割合	胃・集団 63.2% 個別 31.3% 大腸・集団 59.5% 個別 40.0% 肺・集団 63.2% 個別 25.0% 乳・集団 68.8% 個別 45.5% 子宮・集団 66.7% 個別 47.2% (H28)	増加	63.2% 58.8% 67.6% 50.0% 71.1% 85.7% 60.0% 57.6% 61.8% 55.6% (H29)	81.6% 70.6% 75.7% 58.3% 84.2% 100.0% 78.8% 66.7% 79.4% 70.3% (H30)	78.9% 50.0% 81.1% 40.0% 76.3% 55.6% 79.4% 57.6% 76.5% 56.8% (R1)	81.6% 52.9% 83.8% 51.9% 81.6% 44.4% 78.8% 58.8% 79.4% 59.5% (R2)	達成

評価結果	<p>【個別指標】 (目標達成状況) 2指標中、1指標達成 (未達成の指標について) ①は、H28年度が胃内視鏡検診実施要領の施行前年度であり、研修会を多く開催したため基準値が高値である。</p> <p>【中間目標】指標②～⑦ (目標達成状況) 6指標中、1指標達成 (未達成の指標について) ④～⑦は未達成のがん検診もあるが、「市町村がん検診チェックリストを用いた実態調査において実施率が80%以上である市町村割合」は増加。</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度・R3年度のがん検診従事者研修会は中止。 ・国立がん研究センター主催のがん検診のeラーニング研修会を活用するなどがん検診従事者の資質向上のための取組を実施。 ・市町村と検診機関が、がん検診の実施体制の自己点検を行い、課題に応じて改善策を検討することができるよう精度管理向上のための従事者研修会を実施。 ・R1、R2年度に検診機関用のチェックリストを作成。 ・市町村数の割合の表記を分数から百分率に修正。

3 石綿の健康被害に対する対策の推進 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時基準値	計画策定時目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)石綿ばく露者の健康管理の充実 ・受診後の有所見者に対する保健師による保健指導の充実 ・新規受診者拡大のための対象者への広報 ・保健所保健師による相談の実施	① 石綿ばく露による健康不安を持つ人の割合	81.7% (H28)	減少	未把握	未把握	未把握	未把握	未把握

評価結果	【個別指標】 (目標達成状況) 1指標中、1指標未把握 【中間目標】指標⑧ (目標達成状況) 1指標中、1指標未把握 個別指標、中間目標は同じ指標。
特記事項	・石綿ばく露者の健康管理に係る試行調査(以下、「試行調査」という。)は、R1年度で終了。 ・R2年度から市町村主体の肺がん検診など既存検診の機会を活用した「石綿読影の精度に係る調査」に移行。県では、市町村・住民への情報提供を行うとともに、市町村から試行調査参加者のカルテ等送付依頼や、住民からの問合せに対応。 ・R1年度、試行調査の終了により、個別施策・中間目標の指標である「不安の変化に関するアンケート」についても終了。 (今後検討が必要な指標)個別施策の指標①、中間目標の指標⑧

2 がん医療 (1)がん医療の充実

めざす姿

がん患者が、安全かつ安心な質の高いがん医療をうけることができる。

評価結果

【最終目標】指標①・②・③・④

(目標達成状況) 4指標中、4指標達成

県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられる体制構築のため、H29年1月に南和医療圏の地域がん診療病院(南奈良総合医療センター)を指定し、がん医療の空白医療圏を解消。先進医療を担うゲノム医療体制の整備のため、R2年度より奈良県立医科大学附属病院に腫瘍内科学講座を設置運営。今後も更なるがん医療の質の向上を目指し、がん医療体制を整備、推進していく。

最終目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(最終アウトカム)の推移				最新値の 目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
安全かつ安心な質の高い医療を受けている	① 5年相対生存率	—	増加 (12年後評価)	—	60.2% (H23)	60.9% (H24)	60.9% (H24)	達成
がん患者が納得した治療を選択できている	② 医師による診療・治療内容に満足している	82.4% (H29)	増加	—	—	—	86.6% (R3)	達成
	③ 診断や治療方針について、自分の疑問や意見を十分に医師に伝えられた	70.6% (H29)	増加	—	—	—	72.5% (R3)	達成
	④ がんの診断から治療開始までの状況を総合的に振り返り、自身が納得いく治療を選択することができた	86.0% (H29)	増加	—	—	—	88.1% (R3)	達成

最終目標達成に向けた指標(アウトカム)

中間目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(中間アウトカム)の推移				最新値の 目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
各療法について、県内で安全で質の高い医療が提供できている	① がん治療で生じた安全問題を検討している拠点病院の割合 ・検討会の開催回数(1年間)	100% 159回 (H28)	増加	未把握	未把握	未把握	未把握	未把握
	② 手術・化学療法・放射線クリティカルパスに対し、1年に1回以上バリエーション分析を行っている拠点病院の割合	60% (H28)	増加	未把握	未把握	未把握	未把握	未把握
	③ 県内のがん患者が県内がん診療連携拠点病院に受診している割合	70.9% (H25)	増加	65.7% (H27)	67.2% (H28)	68.4% (H29)	69.5% (H30)	未達成
がん患者が必要な時にサポートを受けられるチーム医療体制が整備され、医療従事者間の連携が強化されている	④ 診断・治療に関わる医師、看護師、他の医療スタッフは、十分に連携している	65.6% (H29)	増加	—	—	—	91.3% (R3)	達成
がん患者やその家族に必要な情報を提供できている	⑤ がん治療を決めるまでの間、医師、看護師、他のスタッフは、治療について、患者がほしい情報を提供している	88.4% (H29)	増加	—	—	—	89.9% (R3)	達成
	⑥ がん治療方法についての情報が不十分である	29.4%	減少	—	—	—	27.3% (R3)	達成
	⑦ 病院の診療体制や治療状況についての情報が不十分である	22.3% (H29)	減少	—	—	—	21.0% (R3)	達成

個別施策 中間目標達成に向けて取り組んだこと

1 がん医療提供体制の充実

- (1)拠点病院等の体制整備の充実
- (2)手術療法、放射線療法、薬物療法等の提供体制の充実
- (3)チーム医療提供体制の充実
- (4)がん患者の口腔ケアの医科歯科連携の充実
- (5)小児・AYA世代のがん医療の連携促進
- (6)新たながん医療の実施に向けた検討

2 がん医療の質の向上

- (1)拠点病院等のがん医療の評価・分析
- (2)医療の質の評価方法の検討
- (3)医療関係者へのがん診療情報の見える化

3 患者目線でのがん診療情報の提供

- (1)患者目線でのがん診療情報の見える化
- (2)がん診療情報の提供内容及び周知の充実

1 がん医療提供体制の充実 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時基準値	計画策定時目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況	
				H30	R1	R2	最新値		
(1)拠点病院等の体制整備の充実 ・拠点病院等の適切な人材配置等の指定要件の定期的な確認 ・拠点病院等の実地調査の実施 ・拠点病院等の研修会等の取組支援 ・県拠点病院を中心とした病院間のネットワークの強化 (2)手術療法、放射線療法、薬物療法等の提供体制の充実 ・県拠点病院での人材の育成 ・拠点病院等での術中迅速病理診断や遠隔病理診断の実施体制の整備 ・放射線治療の連携体制の充実(放射線治療におけるメール会議の実施) ・高精度放射線治療の集約化の検討 ・多地点Webカンファレンス(薬物療法)の継続実施 ・県拠点病院を中心とした薬物療法の副作用評価や対応マニュアルの作成と共有化 (3)チーム医療提供体制の充実 ・多職種でのカンサーボードの実施 ・薬物療法等の医療チーム研修会の継続実施 (4)がん患者の口腔ケアの医科歯科連携の充実 ・登録歯科医にかかる課題把握 ・登録歯科医のスキルアップ研修会の実施 ・医科歯科連携を促進するための研修会の実施 ・県民への周知強化 (5)小児・AYA世代のがん医療の連携促進 ・協力連携体制の強化となる「近畿ブロック小児がん診療病院連絡会」に継続し参画 ・医療従事者の資質向上をめざし「阪奈和小児がん連携施設連絡会」に継続し参画 ・小児がん医療にかかる情報提供や相談窓口の充実 ・国の施策の情報を収集・検討 ・国の研究事業を活用し、妊孕性温存療法を希望する患者の経済的負担を軽減のための助成事業実施。 (6)新たながん医療の実施に向けた検討 ・国の施策の情報を収集 ・がん診療連携協議会への情報提供と検討	①	がん化学療法看護認定看護師が配置されている拠点病院・診療病院・支援病院の割合	88.9% (H28)	増加	77.8% (H30)	66.7% (R1)	—	66.7% (R1)	未達成
	②	がん専門薬剤師またはがん薬物療法認定薬剤師が配置されている拠点病院の割合	80.0% (H28)	増加	80.0% (H30)	80.0% (R1)	—	80.0% (R3)	未達成
	③	がん放射線療法看護認定看護師が配置されている拠点病院・支援病院の割合	57.1% (H28)	増加	57.1% (H30)	42.9% (R1)	—	42.9% (R1)	未達成
	④	拠点病院の病理診断医師数	20人 (H28)	増加	19人 (H30)	18人 (R1)	—	20人 (R3)	未達成

2 がん医療の質の向上 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時基準値	計画策定時目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況	
				H30	R1	R2	最新値		
(1)拠点病院等のがん医療の評価・分析 ・拠点病院等の実地調査による医療提供体制の実態把握及び評価分析 ・がん治療における安全上の問題の把握 ・業務改善のためのPDCAサイクルによる評価・分析 (2)医療の質の評価方法の検討 ・分野別の部会横断的に医療の質を測る評価方法を検討 ・拠点病院が国の医療の質にかかる研究事業に参画 (3)医療関係者へのがん診療情報の見える化 ・拠点病院等の取組や人材配置等の比較や好事例の公表 ・拠点病院等に向けたがん診療機能・実績等情報のとりまとめ ・とりまとめ結果をがん診療連携協議会等機会を捉えフィードバック ・先進医療を担うゲノム医療体制の整備のため、R2年度より奈良県立医科大学附属病院に腫瘍内科学講座を設置運営。	⑤	悪性腫瘍手術の実施件数(人口10万人あたりの実施件数(1ヶ月分))	34.1(H26)	増加	—	33.8(H29)	—	33.8(H29)	未達成
	⑥	放射線治療(体外照射)の実施件数(人口10万人あたりの実施件数(1ヶ月分))	243.3(H26)	増加	—	244.6(H29)	—	244.6(H29)	達成
	⑦	外来化学療法の実施件数(人口10万人あたりの実施件数(1ヶ月分))	223.8(H26)	増加	—	163.9(H29)	—	163.9(H29)	未達成
	⑧	実地調査の結果について、がん診療連携協議会等で情報共有	実施済(H29)	継続実施	実施済(H30)	実施済(R1)	—	実施済(R1)	達成
	⑨	拠点病院等での医療安全管理部門等での検討会の開催回数	159回(H28)	増加	未把握	未把握	未把握	未把握	未把握
	⑩	医療の質の評価方法について検討結果の公表	—	3年以内に公表	実施済(H30)	実施済(R1)	実施済(R2)	実施済(R2)	達成

評価結果	<p>【個別指標】 (目標達成状況) 10指標中、3指標達成 (未達成の指標について) ①～④は、新型コロナウイルス感染症の影響で資格取得のための研修会が一部中止。 ⑤は、R1年度現況報告において指定要件であるがん診療連携拠点病院の悪性腫瘍の手術件数は増加。 ⑦は、R1年度現況報告において指定要件であるがん診療連携拠点病院のがんに係る薬物療法のべ件数は増加。 【中間目標】指標①～④ (目標達成状況) 4指標中、1指標達成 (未達成の指標について) ③は、H29年1月南和医療圏に南奈良総合医療センターが地域がん診療病院に指定し、がん医療の空白医療圏を解消。県内全医療圏でがん診療連携拠点病院、地域がん診療病院を指定。</p>
------	---

特記事項	<p>・R3年度から奈良県小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業実施。県内のがん医療機関と生殖医療機関の有機的な連携、妊孕性温存療法を希望する患者の経済的負担を軽減。 ・H30年度に患者目線でのがん診療情報の提供のため、がん診療情報の見える化を実施。 ・先進医療を担うゲノム医療体制の整備のため、R2年度より奈良県立医科大学附属病院に腫瘍内科学講座を設置運営。県内のがん医療機関と生殖医療機関の連携体制を整備。 (今後検討の必要な指標)個別施策の指標⑨、中間目標の指標①②</p>
------	--

3 患者目線でのがん診療情報の提供 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の 目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)患者目線でのがん診療情報の見える化 ・診療実態データの把握・分析 ・適切でわかりやすい情報提供方法の検討、とりまとめ ・診療情報の「がんネットなら」でのわかりやすい情報提供やリーフレット等での周知 (2)がん診療情報の提供内容及び周知の充実 ・拠点病院自らが、院内がん登録情報等を活用し、がん診療情報等を公表 ・国等の最新情報の把握・とりまとめ ・実態把握のための「ならのがんに関する患者意識調査」等アンケート調査の継続実施 ・医療従事者からの情報提供の強化 「がんネットなら」などの情報の周知、複数科が連携した妊孕性等の情報提供の推進 ・がん診療連携協議会と連携した、診断時からの情報提供の強化 ・患者に必要な医療情報等を拠点病院と連携し地域に向けて情報発信	① 診療機能、診療実績等の情報提供内容、周知方法等の検討結果の公表	-	2年以内に公表	実施済(H30)	実施済(R1)	実施済(R2)	実施済(R2)	達成
	② 病院等での「療養ガイド」等の配布数	29,000部(H25~29)	増加	38,600部(H30~R3)	38,600部(H30~R3)	38,600部(H30~R3)	38,600部(H30~R3)	達成
	③ 「がんネットなら」の認知度、アクセス数	認知度 11.3%(H29) アクセス数 69,241件(H28)	増加	- アクセス数 60,721件(H29)	- アクセス数 65,061件(H30)	- アクセス数 87,397件(R1)	認知度 9.0%(R3) アクセス数 76,694件(R2)	未達成 達成
	④ 担当医からセカンドオピニオンの説明を受けた割合	27.1%(H29)	増加	-	-	-	35.7%(R3)	達成
	⑤ 医師から不妊への影響について説明を受けた割合(40歳未満)	45.5%(H29)	増加	-	-	-	81.8%(R3)	達成

評価結果	【個別指標】 (目標達成状況) 5指標中、4指標達成 (未達成の指標について) ③は、「がんネットなら」のアクセス数はH28年度から増加。 【中間目標】指標⑤~⑦ (目標達成状況) 3指標中、3指標達成
特記事項	・R1年度に「がんネットなら」のHPを改修。チラシを作成、がん診療連携拠点病院や患者団体関係機関に配布。 ・H30年度に「がん患者さんのための療養ガイド」を更新。 ・H30年度に「がん診療情報見える化推進事業」を実施。

2 がん医療

(2)がんと診断された時からの緩和ケア

めざす姿 がん患者やその家族が、痛みやつらさが軽減され、療養生活に満足している。

評価結果

【最終目標】指標①・②

(目標達成状況) 2指標中、2指標未達成

①②については、からだの苦痛、気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供について未達成であるが、からだの苦痛、気持ちのつらさに対する症状改善の状況は達成。今後も拠点病院等の緩和ケア外来、チーム医療による緩和ケアを提供していく。

最終目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(最終アウトカム)の推移				最新値の 目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
身体的、精神的、社会的苦痛が緩和されている	① からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供 症状改善の状況	88.9% 59.3% (H29)	増加	—	—	—	80.5% 66.7% (R3)	未達成 達成
	② 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供 症状改善の状況	86.0% 62.0% (H29)	増加	—	—	—	85.5% 63.8% (R3)	未達成 達成

最終目標達成に向けた指標(アウトカム)

中間目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(中間アウトカム)の推移				最新値の 目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
質の担保された緩和ケア提供体制 (緩和ケア外来、チーム医療)が整備されている	① 緩和ケアチームにおける年間新規診療 症例数(拠点病院)	846人 (H28)	増加	748人 (H29)	768人 (H30)	—	722人 (R2)	未達成
	② 緩和ケア外来患者の年間新規診療症例 数(拠点、支援病院)	192人 (H28)	増加	228人 (H29)	255人 (H30)	—	211人 (R2)	達成
がん患者の緩和ケアについての正しい 理解が進んでいる	③ 緩和ケアはがんと診断された時から受 けるものだと知っている	40.6% (H29)	増加	—	—	—	36.1% (R3)	未達成

個別施策 中間目標達成に向けて取り組んだこと

1 緩和ケア提供体制の充実

- (1)拠点病院等の緩和ケア提供体制の質の向上
- (2)医療従事者への緩和ケア研修会の充実

2 緩和ケアの理解促進と情報提供の充実

- (1)緩和ケアに関する情報の充実、普及啓発

1 緩和ケア提供体制の充実 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の 目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)拠点病院等の緩和ケア提供体制の質の向上 ・がん診療連携拠点病院等でのがん看護カウンセリングの実施促進 ・地域と連携した緩和ケア外来の利用促進 ・緩和ケアチーム研修会の実施 ・診断時からの苦痛のスクリーニング等、緩和ケア提供体制に関する評価・分析・公表 ・緩和ケア提供体制の指定要件の確認及び評価・分析 ・業務改善のためのPDCAサイクルによる評価・分析 (2)医療従事者への緩和ケア研修会の充実 ・拠点病院等の医師の緩和ケア研修の受講の徹底 ・緩和ケアフォローアップ研修の検討・実施 ・看護師等のための緩和ケア研修会の検討・実施	① 緩和ケア外来患者の年間受診患者の人数(拠点病院)	1,634人 (H28)	増加	2,044人 (H29)	2,526人 (H30)	—	1,899人 (R2)	達成
	② 緩和ケア外来患者の年間新規診療症例数(拠点、支援病院)	192人 (H28)	増加	228人 (H29)	255人 (H30)	—	211人 (R2)	達成
	③ 緩和ケアチーム研修会の参加医療機関数	8施設 (H28)	増加	13施設 (H30)	14施設 (R1)	未実施	14施設 (R1)	達成
	④ 緩和ケア提供体制に関する評価・分析の公表(年1回)	未実施	実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未達成
	⑤ がん患者指導管理料イを算定している医療機関数	17施設 (H29.12.1)	増加	18施設 (H31.3.1)	18施設 (R2.2.1)	20施設 (R3.2.1)	20施設 (R3.11.1)	達成
	⑥ がん患者指導管理料ロを算定している医療機関数	16施設 (H29.12.1)	増加	17施設 (H31.3.1)	17施設 (R2.2.1)	19施設 (R3.2.1)	19施設 (R3.11.1)	達成
	⑦ 拠点病院における緩和ケア研修会受講率(医師)	91.4% (H29)	90%以上	94.6% (H30)	93.9% (R1)	—	84.9% (R3)	未達成
	⑧ 緩和ケアフォローアップ研修(アドバンス研修)受講者数	未実施	増加	4人 (H30)	未実施	未実施	4人 (H30)	達成
	⑨ 看護師等の緩和ケア研修会(ELNEC-J)の受講者数	未実施	増加	未実施	30人 (R1)	44人 (R2)	44人 (R2)	達成

評価結果	<p>【個別指標】 (目標達成状況) 9指標中、7指標達成 (未達成指標について) ④は、今後実施される予定の緩和ケア提供体制に関する実地調査について、国より評価のための指標や基準が示されるため、動向を注視し実施。 ⑦について、R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により研修会を中止。</p> <p>【中間目標】指標①・② (目標達成状況) 2指標中、1指標達成 (未達成指標について) ①は、外来での緩和ケア患者の年間新規症例数は増加傾向。</p>
特記事項	<p>・がん診療連携拠点病院等における緩和ケア研修の開催について「新型コロナウイルス感染症流行下において、講義、グループ演習及びロールプレイングをweb上で実施する研修会であっても他の要件を満たしていれば、開催指針を満たした研修会とみなす」とされたことから、R2年度より一部のがん診療連携拠点病院で研修会をweb上で実施。</p>

2 緩和ケアの理解促進と情報提供の充実 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の 目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)緩和ケアに関する情報の充実、普及啓発 ・「がんネットなら」「がん患者さんのための療養ガイド」等の内容の充実 ・拠点病院等の地域に向けた公開講座の実施 ・患者に必要な医療情報等を拠点病院等と連携し地域に向けて情報発信	①「がんネットなら」認知度、アクセス数	認知度 11.3% (H29) アクセス数 69,241件 (H28)	増加	— 60,721件 (H29)	— 65,061件 (H30)	— 87,397件 (R1)	認知度 9.0% (R3) アクセス数 76,694件 (R2)	未達成 達成
	②拠点病院等における公開講座の開催回数	6回 (H28)	増加	5回 (H30)	8回 (R1)	未実施	8回 (R1)	達成

評価結果	<p>【個別指標】 (目標達成状況) 2指標中、1指標達成 (未達成指標について) ①は、「がんネットなら」のページビュー数はH28年度から増加。 【中間目標】指標③ (目標達成状況) 1指標中、1指標未達成 (未達成指標について) ③は、新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度は拠点病院等における地域に向けた公開講座が新型コロナウイルス感染症の影響により中止になり、周知啓発の機会が減少。</p>
特記事項	<p>・R1年度に「がんネットなら」を改修。チラシを作成し、がん診療連携拠点病院や患者団体に配布。</p>

2 がん医療

(3)地域連携

めざす姿 がん患者が、自分の望む場所で納得のいく療養生活を送ることができる。

評価結果

【最終目標】指標①・②
 (目標達成状況) 2指標中、1指標達成
 ②については、がん診療連携拠点病院等とかかりつけ医・在宅医との連携ネットワーク体制の更に進めていくことが必要。

最終目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(最終アウトカム)の推移				最新値の 目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
住み慣れた場所で、療養生活を送ることができる	① がん患者の在宅死亡割合	17.5% (H27)	増加	18.7% (H28)	20.1% (H29)	20.1% (H30)	19.6% (R1)	達成
居住する地域にかかわらず、質の高い医療を受けられる	② 在宅緩和ケアについて、希望し、実現可能	40.2% (H29)	増加	—	—	—	34.1% (R3)	未達成

最終目標達成に向けた指標(アウトカム)

中間目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(中間アウトカム)の推移				最新値の 目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
がん診療連携拠点病院等とかかりつけ医・在宅医とのスムーズな医療連携ネットワーク体制が整備されている	① 病院から診療所・在宅医療(看護も含む)へ移った際、病院での情報(診療方針)が診療所、訪問看護ステーションに円滑に伝わった	20.7% (H29)	増加	—	—	—	22.6% (R3)	達成
	② 地域連携クリティカルパス適用患者件数	137件 (H28)	増加	122件 (H29)	145件 (H30)	95件 (R1)	128件 (R2)	未達成
	③ 在宅療養支援診療所数	151施設 (H29.10.1)	増加	162施設 (H31.3.1)	165施設 (R2.2.1)	168施設 (R3.2.1)	170施設 (R3.11.1)	達成
緩和ケアに関してがん診療連携拠点病院等と地域で連携体制が整備されている	④ がん診療連携拠点病院における緩和ケアに関する地域多職種カンファレンスの開催回数(H30～他施設合同会議)	16回 (H28)	増加	17回 (H29)	18回 (H30)	—	18回 (H30)	達成
	⑤ 地域の医療機関からの年間新規紹介患者数(拠点、支援病院)	32人 (H28)	増加	42人 (H29)	39人 (H30)	—	39人 (H30)	達成
がん患者が地域連携や在宅医療について、必要な情報提供を受けている	⑥ 自宅での療養生活についての情報が不十分である	39.9% (H29)	減少	—	—	—	36.4% (R3)	達成

個別施策 中間目標達成に向けて取り組んだこと

1 拠点病院等の地域連携体制の充実

- (1)地域連携クリティカルパスの活用の促進
- (2)拠点病院等と病病連携・病診連携の促進

2 在宅緩和ケア提供体制の整備及び充実

- (1)在宅医療機能の把握・公表
- (2)在宅緩和ケアに携わる人材育成

3 がん患者や県民への情報提供と普及啓発

- (1)在宅療養生活に役立つ情報内容の充実

1 拠点病院等の地域連携体制の充実 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の 目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)地域連携クリティカルパスの活用の促進 ・地域連携クリティカルパスの活用状況の評価・分析 ・拠点病院等での緩和ケアパスの推進 ・国の地域連携クリティカルパスのあり方の検討を受け、県での地域連携のあり方を検討 (2)拠点病院等と病病連携・病診連携の促進 ・地域の多職種連携のカンファレンスの実施 ・地域連携会議の実施 ・国の地域緩和ケア連携調整員研修受講の検討	① 地域連携パスの活用状況の把握・公表	137件 (H28)	増加	122件 (H29)	145件 (H30)	95件 (R1)	128件 (R2)	未達成
	② 緩和ケアパスを整備している拠点病院数	1施設 (H28)	増加	1施設 (H29)	未把握	未把握	1施設 (H29)	未達成
	③ 多職種カンファレンスの実施回数	16回 (H28)	増加	17回 (H29)	18回 (H30)	—	18回 (H30)	達成

2 在宅緩和ケア提供体制の整備及び充実 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の 目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)在宅医療機能の把握・公表 ・拠点病院等が在宅緩和ケアに対応できる診療所等の在宅医療機能の把握・公表 ・県内の病院等の在宅医療の取組の把握 ・「がんネットなら」等での在宅医療機能の情報提供 (2)在宅緩和ケアに携わる人材育成 ・地域のかかりつけ医等への緩和ケア研修会の実施 ・地域の医療・介護従事者への緩和ケア研修の実施	④ 在宅医療機能の公表 [がん患者対応可能な診療所、訪問看護ステーション、薬局等の施設数]	実施済 (H28)	継続実施	実施済 (H30)	実施済 (R1)	—	実施済 (R1)	達成
	⑤ 在宅緩和ケア研修会の参加者数	80人 (H28)	増加	57人 (H29)	42人 (H30)	未実施	42人 (H30)	未達成
	⑥ 医療・介護従事者への緩和ケア研修会の実施回数、参加者数	11回/449人 (H28)	増加	10回/382人 (H29)	10回/332人 (H30)	10回/513人 (R1)	1回/55人 (R2)	未達成

評価結果	<p>【個別指標】 (目標達成状況) 6指標中、2指標達成 (未達成指標について) ①は、地域連携パスについてがん診療連携協議会にて活用状況を把握、がん対策推進協議会で適応した患者数を公表。 ②は、H30年度増減なし。 ⑤は、R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、在宅緩和ケア研修会が未実施。 ⑥は、R1年度は増加したが、R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、医療・介護従事者への緩和ケア研修会の実施回数減少。 【中間目標】指標①～⑤ (目標達成状況) 5指標中、4指標達成 (未達成指標について) ②は減少しているが、地域連携パスの認知度は増加。</p>
特記事項	(今後見直しが必要な指標)個別施策の指標②③

3 がん患者や県民への情報提供と普及啓発 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の 目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)在宅療養生活に役立つ情報内容の充実 ・「がんネットなら」や広報誌等での普及啓発	① 地域連携パスの認知度	14.5% (H29)	増加	—	—	—	18.1% (R3)	達成
	② 「がんネットなら」の認知 度・アクセス数	認知度 11.3% (H29) アクセス数 69,241件 (H28)	増加	— 60,721件 (H29)	— 65,061件 (H30)	— 87,397件 (R1)	認知度 9.0% (R3) アクセス数 76,694件 (R2)	未達成

評価結果	<p>【個別指標】 (目標達成状況) 2指標中、1指標達成 (未達成指標について) ②については、「がんネットなら」のページビュー数はH28年度から増加。 【中間目標】指標⑥ 目標達成状況は1指標中、1指標達成</p>
特記事項	・R1年度に「がんネットなら」のHPを改修。チラシを作成し、がん診療連携拠点病院や患者団体に配布。

3 がん患者等への支援 (1)相談支援及び情報提供

めざす姿

すべてのがん患者やその家族が、不安、悩み、疑問に対して、いつでも身近なところで、必要な情報を受け取ることができ、その悩みや疑問が軽減している

評価結果	<p>【最終目標】 (目標達成状況)2指標中、1指標達成</p> <p>②は、がん相談支援センターの認知度、利用者数は増加しているが、身近なところで必要な情報を受け取ることができるよう、患者目線での情報提供の充実を図る。また、小児・AYA世代等、ライフステージに応じた相談に対応できる体制の整備を継続。</p>
------	---

最終目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(最終アウトカム)の推移				最新値の 目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
がん患者の不安や悩みが軽減されている	① がんと診断されたことによる心配や悩みは 何らかの支援によって現在は軽減した	36.4% (H29)	増加	—	—	—	39.5% (R3)	達成
がん患者の不安や悩みの発生が抑えられている	② からだや治療のことで心配になったとき、 担当医以外にも相談できるところがある	32.3% (H29)	増加	—	—	—	30.6% (R3)	未達成

最終目標達成に向けた指標(アウトカム)

中間目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(中間アウトカム)の推移				最新値の目 標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
がんに関する情報が得やすい体制 ができている	① がんに関する情報 ・がんの治療方法についての情報が不十分 ・病院の診療体制や治療状況についての情報が 不十分 ・緩和ケアについての情報が不十分 ・がん治療にかかる費用についての情報が不十分 ・経済的支援や利用できる社会保障制度などの情 報が不十分 ・自宅での療養生活についての情報が不十分 ・がんの病態や統計データ等の情報が不十分	29.4% 22.3% 37.0% 43.7% 44.4% 39.9% 31.7% (H29)	減少	—	—	—	27.3% 21.0% 31.2% 40.3% 40.5% 36.4% 28.7% (R3)	達成
がん患者やその家族等が、質の高 い相談支援が受けられる体制がで きている	② がん相談支援センターを利用して、相談が役 に立った	100% (H28)	現状維持	98.1% (H29)	98.6% (H30)	97.2% (R1)	99.4% (R2)	未達成

1 相談支援機能の強化

- (1)がん相談支援センターの利用促進と相談支援の質の向上
- (2)ライフステージ等に応じた相談支援体制の整備
- (3)ピア・サポートの活性化

2 患者目線での情報提供の充実

- (1)患者に必要ながんに関する情報の見える化
- (2)がんに関する情報の周知強化

1 相談支援機能の強化 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況	
				H30	R1	R2	最新値		
(1)がん相談支援センターの利用促進と相談支援の質の向上 ・拠点病院等院内での広報の周知 ・拠点病院等の主治医等による患者への周知 ・県民だより等、機会を捉えた周知 ・拠点病院等の医師に対する周知 ・拠点病院と連携した地域の講演会等での周知 ・国立がん研究センター相談員指導者研修等の継続受講 ・県拠点病院等による、相談員を対象とした研修会の実施 ・相談員の配置の把握とフィードバック ・がん相談支援センター利用者満足度調査の実施 ・業務改善のためのPDCAサイクルによる相談業務の評価・分析 (2)ライフステージ等に応じた相談支援体制の整備 ・小児、AYA世代等世代に応じた相談窓口の検討と整備 ・小児・AYA世代のがん患者等への支援の推進(小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業) ・小児・AYA世代のがん患者のニーズの情報収集と交流会の実施 ・相談員を対象とした研修会の実施 ・アピアランスケアに対応できる相談体制の検討と整備 ・がん患者・家族への情報提供(入浴着の着用に関するチラシ作成、配布) (3)ピア・サポートの活性化 ・がん患者サロンの継続実施 ・相談員の情報の場「がん患者サロン運営者会議」の継続実施 ・がん患者サロン運営者(相談員等)のための勉強会の実施 ・拠点病院がピア・サポーターと連携し「運営会議」を継続実施 ・がん患者サロンの利用者拡大のための周知 ・女性特有のがんなどがん種別のがん患者サロンの検討・実施 ・国のピア・サポート活動実態調査や養成研修の見直し結果に基づいたピア・サポーターの養成 ・民間の相談支援の場である、がん患者団体の活動発表や情報交換の場の提供促進	①	がん相談支援センターの利用者数	5,880件(H28)	増加	6,407人(H29)	7,064人(H30)	7,358人(R1)	7,731人(R2)	達成
	②	相談支援センターの認知度	51.8%(H29)	増加	-	-	-	56.2%(R3)	達成
	③	国立がん研究センター研修【指導者研修】を受けた相談員数	12人(~H29)	増加	12人(~H30)	12人(~R1)	12人(~R2)	12人(~R2)	未達成
	④	県内相談員対象の研修会の開催回数	1回(H29)	実施継続	1回(H30)	未実施(R1)	1回(R2)	1回(R2)	未達成
	⑤	がん患者サロンの利用者数	801人(H28)	増加	760人(H29)	867人(H30)	757人(R1)	117人(R2)	未達成
	⑥	がん患者サロンの認知度	50.2%(H29)	増加	-	-	-	42.0%(R3)	未達成
	⑦	がん患者サロン運営会議の開催回数(各拠点病院)	8回(H28)	実施継続	7回(H29)	6回(H30)	9回(R1)	3回(R2)	達成
	⑧	がん患者サロン運営者会議の開催回数	2回(H28)	実施継続	1回(H30)	1回(R1)	未実施	未実施	未達成
	⑨	ピア・サポーター養成数	48人(~H29)	増加	48人(~H30)	65人(~R1)	65人(~R2)	65人(~R2)	達成

2 患者目線での情報提供の充実 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成 状況	
				H30	R1	R2	最新値		
(1)患者に必要ながんに関する情報の見える化 ・診療実態データの把握・分析 ・適切でわかりやすい情報提供方法の検討、とりまとめ ・がん診療情報の「がんネットなら」での分かりやすい情報提供やリーフレット等での周知 ・拠点病院自らが、院内がん登録情報等を活用し、がん診療情報等を公表 ・実態把握のための「ならのがんに関する患者意識調査」等アンケート調査の継続実施 ・国が体制を整備していく妊孕性等にかかる情報など、最新情報を把握とりまとめ (2)がんに関する情報の周知強化 ・「がんネットなら」や「療養ガイド」、県民だより等での情報提供 ・医療従事者を対象に「がんネットなら」などの情報の周知強化 ・患者に必要な医療情報等を拠点病院と連携し地域に向けて情報発信	⑩	「がんネットなら」の認知度	11.3% (H29)	増加	-	-	-	9.0% (R3)	未達成
	⑪	「がんネットなら」のページビュー数	69,241件 (H28)	増加	60,721件 (H29)	65,061件 (H30)	87,397件 (R1)	76,694件 (R2)	達成

<p>評価結果</p>	<p>【個別指標】 (目標達成状況)11指標中、5指標達成 (未達成の指標について)③は、計画策定以降、新たな受講者なし。④⑤⑥⑧は、新型コロナウイルス感染症の影響により患者サロン等実施中止。⑩は新型コロナウイルス感染症の影響により周知啓発機会が減少。</p> <p>【中間指標】指標①② (目標達成状況)2指標中、1指標達成 (未達成の指標について)②は、高水準を維持できており、がん相談支援センターの利用者は増加している。</p>
<p>特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がん相談支援はこれまで対面での支援が殆どだったが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施が困難な状況であったため、今後、実施可能な方法等についても関係者と検討していくことが必要。 ・妊孕性温存療法を希望するがん患者等の経済的負担を軽減するため、R3年度より小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業を実施。 ・乳がんや皮膚移植の手術により傷あとが残った方々が、周囲を気にすることなく入浴を楽しめるよう、入浴着の着用について広く周知を行うためR2年度にチラシを作成しがん患者やその家族等に周知を実施。

3 がん患者等への支援

(2)がん患者の就労を含めた社会的な問題

めざす姿

がん患者やその家族が抱える仕事と治療の両立についての不安が軽減され、働くことが可能で、働く意欲のあるがん患者は安心して働くことができる。

評価結果

【最終目標】

(目標達成状況)2指標中、1指標達成

②は治療と仕事の両立支援体制のある事業所は増加したが、就労の継続に対する事業者の理解・支援に向けてより一層の周知啓発が必要。

最終目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(最終アウトカム)の推移				最新値の 目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
がん患者やその家族が抱える仕事と治療の両立についての不安が軽減されている	① がんの治療を受けながら、働き続けられる環境だと思う	29.1% (H29)	増加	—	—	—	33.5% (R3)	達成
がん患者が働くことが可能で、働く意欲のあるがん患者は安心して働くことができる	② がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事の継続に対する事業主の理解・支援が受けられた	78.9% (H29)	増加	—	—	—	77.3% (R3)	未達成



最終目標達成に向けた指標(アウトカム)

中間目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(中間アウトカム)の推移				最新値の 目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
事業所と医療機関、県、国(労働局等)の有機的な連携が一層推進している	① 仕事と治療の両立支援体制のある事業所の割合	75.3% (H28)	増加	—	—	76.3% (R1)	76.3% (R1)	達成
がん患者に仕事と治療の両立についての必要な情報を提供できている	② がん初めて治療・療養したとき、一定期間(連続して3カ月以上)仕事を休み、復職、復帰した	37.6% (H29)	増加	—	—	—	34.8% (R3)	未達成



個別施策 中間目標達成に向けて取り組んだこと

1 がん患者の治療と仕事の両立等相談支援体制の充実

- (1) 拠点病院での就労相談の充実
- (2) 県内の治療と仕事の両立支援相談窓口の連携・周知

2 がん患者の治療と仕事の両立支援体制の整備

- (1) 事業所の両立支援の体制整備の推進
- (2) 両立支援の連携体制の整備

3 就労を含めた社会的な問題等の情報提供の充実

- (1) 両立支援の事例を活用した情報発信
- (2) 社会的な問題等の情報提供

1 がん患者の治療と仕事の両立等相談支援体制の充実 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1) 拠点病院での就労相談の充実 ・拠点病院の就労相談の継続実施 ・相談窓口周知リーフレットの作成 ・医療従事者の理解促進のための研修会の実施 ・相談員の資質向上のための研修会の実施 ・社会保険労務士・相談員の情報交換会の実施 ・出張相談窓口の検討・実施(奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター) ・相談窓口の検証・ニーズ把握 (2) 県内の治療と仕事の両立支援相談窓口の連携・周知 ・働き方にかかる相談窓口を連携し周知	① 就労相談の実施回数、利用者数	27回 40人 (H28)	増加	32回 42人 (H29)	27回 50人 (H30)	25回 45人 (R1)	19回 25人 (R2)	未達成
	② 情報交換会の実施回数	1回 (H29)	継続実施	—	未実施	—	未実施	未達成
	③ 医療従事者の研修会実施回数	1回 (H28)	増加	2回 (H29)	1回 (H30)	1回 (R1)	未実施 (R2)	未達成
	④ リーフレットの配布部数	—	増加	—	6,000部 (H30~R1)	6,050部 (H30~R2)	6,050部 (H30~R2)	達成
	⑤ 就労相談窓口の認知度	10.8% (H29)	増加	—	—	—	11.5% (R3)	達成
	⑥ 就職相談窓口の認知度	7.4% (H29)	増加	—	—	—	7.3% (R3)	未達成
	⑦ 就職相談の実施回数、利用者数	27回 30人 (H28)	増加	52回 44人 (H29)	52回 42人 (H30)	47回 43人 (R1)	66回 50人 (R2)	達成

2 がん患者の治療と仕事の両立支援体制の整備 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)事業所の両立支援の体制整備の推進 ・労働・雇用部局と連携した実態把握 ・全国健康保険協会奈良支部等団体と連携した事業者への啓発(講演会、広報誌等) ・奈良産業保健総合支援センターの事業所向けセミナーや産業医等への研修等の周知 (2)両立支援の連携体制の整備 ・県のがん患者等支援部会に両立支援の関係機関が参画 ・奈良労働局の「就職支援連絡協議会」にがん患者等支援部会委員が参画 ・奈良労働局の「地域両立支援推進チーム」に県や就労関係者が参画	⑧ 職場環境調査の実施結果の公表	H25、H28 公表済	実施、公表	-	R1調査 公表済	-	R1調査 公表済	達成

3 就労を含めた社会的な問題等の情報提供の充実 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)両立支援の事例を活用した情報発信 ・「奈良県社員・シャイン職場づくり企業」への登録促進 ・県ホームページ等で表彰事業所や好事例を周知 ・両立支援体験者の事例収集 ・好事例を「がんネットなら」や県民だより、関係機関の広報誌等で周知 (2)社会的な問題等の情報提供 ・「がんネットなら」、県民だより、新聞広告等機会を捉えた情報提供 ・拠点病院と連携した地域向け講演会での周知 ・社会的な問題(QOLの向上、外見の問題、生殖機能の温存、がん患者の自殺、高齢者の問題等)を情報収集し、発信	⑨ 「奈良県社員・シャイン職場づくり推進事業」のがん治療と仕事の両立支援企業登録数	3件 (H28)	増加	6件 (H30)	6件 (R1)	6件 (R2)	6件 (R3)	達成
	⑩ 情報発信した好事例の企業数	-	増加	未実施	未実施	未実施	未実施	未達成

評価結果	【個別指標】 (目標達成状況) 10指標中、5指標達成 (未達成の指標について) ①②③は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止等。 【中間目標】指標①② (目標達成状況) 2指標中、1指標達成 (未達成の指標について) ②は新型コロナウイルス感染症の影響により就労支援に係る十分な情報提供ができなかった。
特記事項	令和2年度より奈良県総合医療センターに、ハローワーク奈良との連携により就職相談窓口を設置し支援体制を整備。

4 がん登録

めざす姿 がん患者ががん登録データを活用した質の高いがん医療を受けることができる。

評価結果

【最終目標】指標①
(目標達成状況)1指標中、1指標達成
最新値は目標達成。12年後評価に向けて、がん登録データを活用できるさらなる体制整備及び理解の普及を目指す。

最終目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(最終アウトカム)の推移				最新値の 目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
医療の質が向上している	① 5年相対生存率	—	増加 (12年後評価)	—	60.2% (H23)	60.9% (H24)	60.9% (H24)	達成

最終目標達成に向けた指標(アウトカム)

中間目標	指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(中間アウトカム)の推移				最新値の 目標達成 状況
				H30	R1	R2	最新値	
がん登録データの精度が向上し、 データを有効活用している	① DCN:死亡情報で初めて把握された症例 DCO:死亡情報のみの症例 MI比:死亡/罹患比	9.6% 6.3% 0.41 (H25)	減少	6.0% 3.9% 0.37 (H27)	4.8% 3.2% 0.37 (H28)	3.4% 2.1% 0.36 (H29)	3.0% 2.0% 0.34 (H30)	達成
地域でがん登録データが活用しや すい体制ができている	② データ活用の件数	—	増加	1件 (H30)	1件 (R1)	2件 (R2)	2件 (R3)	達成
県民が、全国がん登録について正 しい理解が進んでいる	③ がん登録の認知度	14.4% (H29)	増加	—	—	—	14.2% (R3)	未達成
がん登録に基づいた適切な情報 を得ることができる	④ がんの病態や統計データ等の情報が不十分 である	31.7% (H29)	減少	—	—	—	28.7% (R3)	達成

個別施策 中間目標達成に向けて取り組んだこと

1 がん登録の精度向上

- (1)全国がん登録のスムーズな運営
- (2)がん登録の精度向上

2 がん登録データ等を活用したがん対策の検討・実施

- (1)がん登録データの分析
- (2)データを活用したがん対策の検討・実施

3 データを活用した情報提供等

- (1)患者目線でのがん診療情報の見える化(再掲)
- (2)医療関係者へのがん診療情報の見える化(再掲)
- (3)全国がん登録の普及啓発の推進

1 がん登録の精度向上 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)全国がん登録のスムーズな運営 (2)がん登録の精度向上 ・がん登録担当者研修会の実施	① 全国がん登録オンラインシステムでの申請可能な医療機関数	44医療機関 (H29.10)	増加	58医療機関 (H30.12)	60医療機関 (R2.2)	58医療機関 (R3.2)	56医療機関 (R3.11)	達成
	② 研修参加医療機関数	35医療機関 44人 (H29年度)	増加	22医療機関 29人 (H30)	28医療機関 42人 (R1)	未実施	28医療機関 42人 (R1)	未達成

2 がん登録データ等を活用したがん対策の検討・実施 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
(1)がん登録データの分析 ・がん登録データ(地域がん登録、院内がん登録、全国がん登録)の把握 ・予防・早期発見にかかるデータの把握 ・多面的ながん関連データの連携・分析 (2)データを活用したがん対策の検討・実施 (地域別がん対策見える化推進事業) ・医療機関や市町村等と連携したデータ分析の検証 ・死亡率の分析結果や地域別課題に応じたがん対策の検討 ・市町村や医療関係者に向けた効果的ながん対策の提言 ・全国がん登録データの提供体制の整備(審議会等の設置・運営)	③ 各種分析及び評価の結果の公表	-	3年以内に段階的に公表	公表済 (H30)	公表済 (R1)	公表済 (R2)	公表済 (R2)	達成
	④ 検討結果を公表	-	2年以内に公表	公表済 (H30)	公表済 (R1)	公表済 (R2)	公表済 (R2)	達成
	⑤ 審議会の開催回数	-	実施	1回 (H30)	2回 (R1)	2回 (R2)	2回 (R3.12)	達成

評価結果

【個別指標】
(目標達成状況) 5指標中、4指標達成
(未達成の指標について) ②は、H30年度、R1年度は継続開催できていたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりそれ以降は中止。
【中間目標】指標①②
(目標達成状況) 2指標中、2指標達成

特記事項

・H31年1月より、全国がん登録奈良県がん情報及び匿名化が行われた全国がん登録奈良県がん情報の利用提供が開始。
・地域でがん登録データを活用できることを目指し、「ならのがん医療見える化推進事業」等によりがん登録データの集計・分析、評価に注力。結果公表後も、地域での施策への活用を目指し、がん登録データの集計結果をがんネットならに公表。
・がん登録担当者研修会については、がん登録データの精度が年々改善していることから、がん登録運営の質が向上。今後は、実務担当者の抱える課題を把握し、指標の設定についても検討することが必要。
・各種がん関連データを集計・分析し、地域の課題を明らかにするとともに、効果的ながん対策の取組を提案する、地域別がん対策見える化推進事業をH30年度から実施し、各市町村においてもデータ活用の方や課題抽出の手法の普及に取り組んでいる。

3 データを活用した情報提供等 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標		計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標 達成状況
					H30	R1	R2	最新値	
(1)患者目線でのがん診療情報の見える化 (がん診療情報見える化推進事業) ・診療実態データの把握・分析 ・適切でわかりやすい情報提供方法の検討、とりまとめ ・診療情報の「がんネットなら」でのわかりやすい情報提供やリーフレット等での周知 (2)医療関係者へのがん診療情報の見える化 (がん診療情報見える化推進事業) ・拠点病院等の取組や人材配置等の比較や好事例の公表 ・拠点病院等に向けたがん診療機能・実績等情報のとりまとめ(がん診療情報の見える化) ・とりまとめ結果をがん診療連携協議会等機会を捉えフィードバック (3)全国がん登録の普及啓発の推進 ・「がんネットなら」、チラシ等を活用した普及啓発	⑥	検討結果の公表	協議会で 公表 (H30)	2年以内に 公表	協議会で公表 (H30)	「がんネットなら」 改修 (R1)	「がんネットなら」 更新 (R2)	「がんネットなら」 更新 (R3)	達成
	⑦	「がんネットなら」ページ ビュー数	69,241件 (H28)	増加	60,721件 (H29)	65,061件 (H30)	87,397件 (R1)	76,694件 (R2)	達成
	⑧	チラシ配布数	—	増加	—	「がんネットなら」チラ シ作成(10,000部) (R1)	「がんネットなら」チラ シ配付(5,000部) (R2)	「がんネットなら」チラ シ配付(1,258部) (R3)	達成

評価結果	【個別指標】 (目標達成状況) 3指標中、3指標達成。 【中間目標】指標③④ (目標達成状況) 2指標中、1指標達成 (未達成の指標について) ③は、今後、県民に対し、周知啓発の効果的な方法を検討し、強化する。
特記事項	・がん登録に基づいた適切な情報を県民が得ることができることを目指し、がん登録データをがん診療情報見える化推進事業(H30)、地域別がん対策見える化推進事業(H30～R3)で活用。

5 がん教育・普及啓発

めざす姿

児童・生徒が、子どもの頃からがんに関する正しい知識を持ち、がんの予防や早期発見に注意を払っている。また、自分や身近な人ががんになっても、それを正しく理解し、向き合っている。

評価結果

【最終目標】指標①～⑤

(目標達成状況)5指標中、4指標達成

外部講師による研修会で質問票を用いて研修会の事前事後に質問を実施。⑤の質問については、未達成であるが、事前の質問時より高い正解率となっている。①の質問については、研修会事後で正解率は100%となった。がん教育推進会議で協議されたがん教育教材、啓発資材等や「奈良県がんと向き合う日」を活用した取組の推進により、児童・生徒のがんに関する知識は向上。がんについて正しく理解し、学んだことを身近な家族へ伝えていくこと、がんと健康について語る機会づくり等継続していく。

最終目標	指標		計画策定時 基準値	計画策定時 目標値	指標(最終アウトカム)の推移				最新値の 目標達成 状況
					H30	R1	R2	最新値	
中学生、高校生におけるがんに関する知識の向上	①	早期発見すれば、がんは治りやすい 事前 事後 向上率	92.8% 97.7% 4.9% (H29)	向上率の向上 または維持	96.4% 98.5% 2.1% (H30)	96.5% 98.8% 2.3% (R1)	98.9% 100% 1.1% (R2)	98.9% 100% 1.1% (R2)	達成
	②	がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う 事前 事後 向上率	82.4% 88.1% 5.7% (H29)		87.5% 90.7% 3.2% (H30)	46.7% 66.6% 19.9% (R1)	54.5% 78.0% 23.5% (R2)	54.5% 78.0% 23.5% (R2)	達成
	③	がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい 事前 事後 向上率	92.9% 96.0% 3.1% (H29)		89.9% 96.8% 6.9% (H30)	58.3% 73.1% 14.8% (R1)	70.9% 80.0% 9.1% (R2)	70.9% 80.0% 9.1% (R2)	達成
	④	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う 事前 事後 向上率	77.7% 82.4% 4.7% (H29)		77.2% 83.4% 6.2% (H30)	36.3% 58.1% 21.8% (R1)	41.8% 58.0% 16.2% (R2)	41.8% 58.0% 16.2% (R2)	達成
	⑤	将来、たばこは吸わないでいようと思う 事前 事後 向上率	85.9% 93.7% 7.8% (H29)		95.8% 96.1% 0.3% (H30)	88.9% 91.3% 2.4% (R1)	94.1% 97.5% 3.4% (R2)	94.1% 97.5% 3.4% (R2)	未達成

最終目標達成に向けた指標(アウトカム)

中間目標	指標		計画策定時基準値	計画策定時目標値	指標(中間アウトカム)の推移				最新値の目標達成状況
					H30	R1	R2	最新値	
中学校、高等学校において、がん教育教材を使用したがん教育が実施できている	①	中学校、高等学校のがん教育の実施率 中学生 高校生	74.4% 64.1% (H28)	増加	81.7% 55.9% (H29)	84.5% 70.6% (H30)	—	84.5% 70.6% (H30)	達成
小学校において、「奈良県がんと向き合う日」を活用し、がんに関する啓発ができている	②	啓発用リーフレットを活用したがんに関する啓発の実施率	90.3% (H29)	増加	86.2% (H30)	86.2% (R1)	87.0% (R2)	87.0% (R2)	未達成

個別施策 中間目標達成に向けて取り組んだこと

<p>1 中学校・高等学校におけるがん教育の充実、推進</p> <p>(1)がん教育用教材等の内容更新 (2)外部講師を活用したがん教育の推進</p>	<p>2 小学校(高学年)におけるがんに関する啓発活動の推進</p> <p>(1)イベントを活用した小学生へのがん教育の普及啓発</p>	<p>3 がん教育の普及啓発の推進</p> <p>(1)教員への研修事業の充実 (2)がん教育の普及啓発</p>	<p>4 がん対策全般に関する普及啓発の推進</p> <p>(1)がん対策にかかる普及啓発</p>
---	--	--	---

1 中学校・高等学校におけるがん教育の充実、推進 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標		計画策定時基準値	計画策定時目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況
					H30	R1	R2	最新値	
(1)がん教育用教材等の内容更新 ・がん教育推進に向けた計画と評価方法の検討 ・がん教育に関する計画の検証 ・がん教育用教材等の内容更新 ・系統立てた授業内容の検討 ・指導モデル作成の検討 (2)外部講師を活用したがん教育の推進	①	中学校・高等学校におけるがん教育の実施率	中学校 74.4% (H28) 高等学校 64.1% (H28)	増加	中学校 81.7% (H29) 高等学校 55.9% (H29)	中学校 84.5% (H30) 高等学校 70.6% (H30)	—	中学校 84.5% (H30) 高等学校 70.6% (H30)	達成

2 小学校(高学年)におけるがんに関する啓発活動の推進 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標		計画策定時基準値	計画策定時目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況
					H30	R1	R2	最新値	
(1)イベントを活用した小学生への検討 ・がん教育の普及啓発	②	小学校におけるがんに関する啓発の実施率	47.4% (H29)	増加	47.4% (H29)	53.1% (H30)	—	53.1% (H30)	達成

3 がん教育の普及啓発の推進 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時基準値	計画策定時目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
・教員を対象としたがん教育に関する研修会の実施 ・がん教育の取組の周知	③ 教員を対象としたがん教育に関する研修会の実施回数	1回 (H28)	維持	1回 (H30)	1回 (R1)	1回 (R2)	1回 (R2)	達成

4 がん対策全般に関する普及啓発の推進 目標達成に向けて取り組んだこととその指標(アウトプット)

主な取組	個別施策の指標	計画策定時基準値	計画策定時目標値	指標(アウトプット)の推移				最新値の目標達成状況
				H30	R1	R2	最新値	
・がん医療等各分野での情報提供の推進 ・「がんネットなら」を活用した普及啓発の促進	④ 「がんネットなら」のページビュー数	69,241件 (H28)	増加	65,061件 (H30)	87,397件 (R1)	76,694件 (R2)	76,694件 (R2)	達成

評価結果	<p>【個別指標】 (目標達成状況) 4指標中、4指標達成</p> <p>【中間目標】指標 ①・② (目標達成状況) 目標達成状況は2指標中、1指標未達成 (未達成の指標について)②について、新型コロナウイルス感染症の影響で啓発リーフレットを活用した啓発教材の配布等が十分に行えなかったが、中学校・高等学校でのがん教育の実施率、小学校での啓発実施率は増加。</p>
特記事項	<p>・教員を対象としたがん教育に関する研修会をR3年度はオンラインで2回開催予定。</p> <p>・新学習指導要領に基づいたがん教育について、がん教育啓発資材や外部講師の派遣等の取組をがん教育推進会議にて検討(小学校 R2年度、中学校 R3年度、高等学校 R4年度 学習指導要領改訂)</p>